



**IBM Systems**

# **IBM Director リリース情報**

*バージョン 5.10 アップデート 3*







**IBM Systems**

**IBM Director リリース情報**

*バージョン 5.10 アップデート 3*

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM Systems  
IBM Director Release Notes  
Version 5.10 Update 3®

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.9

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、  
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2005, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

# 目次

<b>第 1 章 このリリースについて</b>	<b>1</b>
このリリースの新機能	1
製品修正履歴	5
<b>第 2 章 インストールおよびアップグレードの情報</b>	<b>11</b>
一般的なインストールに関する注意	11
IBM Director 5.10 アップデート 3 コンポーネントのバージョン互換性	11
アップグレード・パッケージの入手	12
IBM Director サーバーのアップグレード	15
i5/OS 上の IBM Director サーバーのアップグレード	15
Linux 上の IBM Director サーバーのアップグレード (System x)	17
Linux 上の IBM Director サーバーのアップグレード (System z)	17
Windows 上の IBM Director サーバーのアップグレード	18
IBM Director コンソールのアップグレード	19
Linux 上の IBM Director コンソールのアップグレード (System x)	19
Linux 上の IBM Director コンソールのアップグレード (System z)	19
Windows 上の IBM Director コンソールのアップグレード	20
IBM Director エージェントのアップグレード	20
i5/OS 上の IBM Director エージェントのアップグレード	20
Linux 上の IBM Director エージェントのアップグレード (System x)	21
Linux 上の IBM Director エージェントのアップグレード (System z)	21
Linux (64 bit) 上の IBM Director エージェントのアップグレード (Intel Itanium システム)	22
NetWare 上の IBM Director エージェントのアップグレード	22
Windows (32 ビット) 上の IBM Director エージェントのアップグレード	23
Windows (64 bit) 上の IBM Director エージェントのアップグレード (Intel Itanium システム)	23
IBM Director コア・サービスのアップグレード	24
Linux 上の IBM Director コア・サービスのアップグレード (System x)	24
Linux 上の IBM Director コア・サービスのアップグレード (System z)	24
Windows 上の IBM Director コア・サービスのアップグレード	25
z/VM Manageability Access Point のアップグレード	25

CIMOM データ・リポジトリのバックアップを作成	26
IBM Director エージェントまたは IBM Director サーバーのアップグレード	26
z/VM 管理プロファイルを実装する z/VM CIM インストールメンテーションのアップグレード	27
失敗したアップグレードのリカバリー	27
<b>第 3 章 既知の制限、問題、および回避策 31</b>	<b>31</b>
制限	31
ハードウェア状況タスクが報告する IBM BladeCenter サーバーの障害発生ドライブの番号が正しくない場合があります	31
IBM IntelliStation Z Pro、モデル 9228 は、Linux 上では、Alert Standard Format をサポートしない	31
IBM IntelliStation Z Pro、モデル 9228 は、CPU の温度が上がった場合の CPU 温度イベントをサポートしない	31
IPMI をサポートする管理対象サーバーでは、一部のイベントが「Sensor xx」ハードウェア・イベントとして表示される	31
複数のイベント・アクション・プランがある場合でも、それぞれの管理対象システムのイベント・アクション・プランに許されるリソース・モニターしきい値は 1 つだけである	32
IC46865: (Windows システムの場合のみ) カテゴリにカスタム・パッケージを入れてカスタム・パッケージ・エディターでリポート・オプションを使用すると、ソフトウェア配布ジョブが失敗する場合があります	32
インベントリー照会ブラウザーで IBM Director エージェントが IBM Director コア・サービスとして表示される	32
IBM Director コア・サービスがアンインストールされた後に slpd および Linux を実行する管理対象システムがレベル 1 管理対象システムとして誤って検出される	32
setkvm コマンドに -owner オプションを指定すると処理が行われない	33
問題	33
IBM サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールにより、リソース・エラーがセッション限度を超えた	33
DS4000 シリーズのストレージ・デバイスに関するシステム・ヘルスが正しく報告されない	33
ハイパー・スレディングが使用可能であるときに、「リソース・モニター」タスクが、CPU が 1 つしか存在しない場合でも、2 つの CPU モニター・リソースを表示する	34
HMC 管理対象オブジェクトが検出されない	34

回避策	35
VMware ESX 3.0 を実行している管理対象システムはイベントを送信しない。	35
HS21 ブレード・サーバーは、MPA > 不明イベントを生成することがある。	36
SUSE Linux Enterprise Server 9 にインストールされた IBM Director サーバーは、管理サーバーからハードウェア状況を収集し、イベントを収集するように手動で構成する必要がある。	36
ハードウェアを変更すると、サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールからエラーが戻される場合がある。	37
5.10 アップデート 2 以降で、サーバー構成マネージャーおよび管理プロセッサのコマンドライン・インターフェースが失敗する。	37
fwupdate コマンドが拡張管理モジュールのファームウェアを更新しない。	38
外部アプリケーション起動ウィザードが失敗する。	38
<b>第 4 章 資料の更新</b>	<b>39</b>
IBM Remote Deployment Manager がインストールされている場合に IBM サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールを使用	39
標準インターフェース制御のキーボード・ショートカット	40

構成マネージャー・プロファイル後方互換性ユーティリティーの使用	44
Red Hat Enterprise Linux バージョン 3 および 4 用の SNMP アクセスおよびトラップ転送を使用可能にする	45
管理プロセッサ・コマンドライン・インターフェースの getmmvpd コマンド	47
「カスタム・パッケージの作成」ウィンドウ: i5/OS ページ	48
twgrestore	51
twgreset	52

## 付録 A. 関連情報 . . . . . 53

## 付録 B. カスタマー・サポートへの連絡 57

サポートを依頼する前に	57
資料の使用	57
ヘルプおよび情報を WWW から入手する	58
ソフトウェアのサービスとサポート	58

## 付録 C. 特記事項および商標 . . . . . 61

特記事項	61
商標	62

---

## 第 1 章 このリリースについて

本書には、IBM® Director 5.10 アップデート 3 (IBM Director 5.10.3 と呼ばれます) のリリース情報が記載されています。

これらのリリース情報に対する今後の更新および他の資料については、IBM Director の Web サイト [www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems\\_management/ibm\\_director/resources/](http://www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/ibm_director/resources/) を参照してください。

---

### このリリースの新機能

このトピックでは、IBM Director 5.10 アップデート 3 の新規機能および機能拡張に関する情報を提供します。

#### IBM Director での作業方法の改善点

以下の拡張機能により、IBM Director でのユーザー処理が変更または追加されました。

##### 新しいサーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツール

サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールは、Intel ベースの管理サーバー用 IBM Director の機能拡張版です。このツールは、ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) のブロック・レベル・ストレージに対する単純化されたスクリプト可能コマンドライン操作を追加して、ストレージ・ボリュームおよびそれらのストレージからサーバーへのマッピングを提供します。

サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールのインストールおよび使用の説明は、

[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_main.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_main.html) の IBM Systems Software Information Center に記載されています。

##### 新しい構成マネージャー・プロファイル後方互換性ユーティリティ

構成マネージャー・プロファイル後方互換性ユーティリティは、IBM Director バージョン 4.10、4.20、4.21、および 4.22 で作成されたデプロイメント・ウィザードの構成プロファイルを IBM Director 5.10 で使用可能な構成マネージャー・プロファイルに変換します。

##### 「外部アプリケーション起動」タスクの拡張機能

「外部アプリケーション起動」タスクに、新しい外部アプリケーション起動ウィザードが補足されて、ユーザーがコマンド・タスク・ファイルの作成および変更をより簡単に行えるようになりました。さらに、「外部アプリケーション」タスクが以下のように変更されました。

- 「外部アプリケーション」タスクが選択されたか非選択であることを示すために別々のアイコンを指定できます。
- 「外部アプリケーション」タスクに複数の管理対象オブジェクト・タイプを関連付けることができます。
- 「外部アプリケーション」タスクに対して、これまで適用されていた英字の命名上の制約がなくなりました。

- `dircli refreshcmdexts` コマンドを使用して、コマンドラインから外部タスクを最新表示できます。
- 環境変数を使用して、追加の管理対象オブジェクト属性を外部タスクに渡すことができます。
- ユーザーが指定したファイルがある場合は、タスクを表示のみ、または開始するものとして設定できます。
- 非対話式の「外部アプリケーション」タスクを作成し、管理サーバー上で実行することができます。

外部アプリケーション起動ウィザードのインストールおよび使用の説明は、[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/eal\\_wiz/frj0\\_main.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/eal_wiz/frj0_main.html) の IBM Systems Software Information Center に記載されています。

### 新しい iSCSI 構成ウィザード

BladeCenter® の「構成マネージャー」タスクには、IBM BladeCenter HS20、HS40、および LS20 など、適切なファームウェア・レベルの iSCSI ハードウェアおよびソフトウェア・イニシエーターをサポートするブレード・サーバーの iSCSI 構成パラメーターの作成、読み取り、および適用を行う新規 iSCSI 構成ウィザードが含まれています。イニシエーターは、iSCSI 構成パラメーターを使用して、DS300 などの iSCSI ターゲット・ストレージ・デバイスとの通信を開始します。

新規バージョンの **IBM Director ServeRAID™ マネージャー extension** が使用可能です。IBM Director ServeRAID マネージャー V8.30 は、

[www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems\\_management/ibm\\_director/](http://www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/ibm_director/) の IBM Director サポート・サイトからダウンロードできます。このバージョンでは、ServeRAID-8k および ServeRAID-8k-I コントローラーのサポートが追加されています。

### 新規イベント

IBM Director 5.10.3 は、以下の新規イベント・タイプを含みます。

- 相関 > NMO > ブレード・シャーシ
- MPA > コンポーネント > BIOS > 破損
- MPA > コンポーネント > バッテリー > 障害
- MPA > コンポーネント > ブレード拡張装置 > 障害
- MPA > コンポーネント > ブレード・サーバー > 非互換
- MPA > コンポーネント > 並行 KVM > 障害
- MPA > コンポーネント > 拡張カード > 障害
- MPA > コンポーネント > ファン・パック > 障害
- MPA > コンポーネント > ファン・パック > 挿入済み
- MPA > コンポーネント > ファン・パック > PFA
- MPA > コンポーネント > ファン・パック > 取り外し済み
- MPA > コンポーネント > フロント・パネル > 障害
- MPA > コンポーネント > 入出力ボード > 障害
- MPA > コンポーネント > RAID > 障害
- MPA > コンポーネント > サーバー > 電源 > 使用不可
- MPA > コンポーネント > サービス・プロセッサ > 不一致



### 新しい BladeCenter T 管理モジュールのイベント重大度

BladeCenter T 管理対象オブジェクトの更新済み管理モジュールのファームウェアを使用すると、アラート・マネージャーにより、イベントにデフォルト以外の重大度を指定できます。この方法でイベント重大度を定義すると、IBM Director は、指定された重大度を認識し、使用することができます。

### ストレージ管理対象オブジェクトの管理に対する拡張サポート

IBM Director 5.10 アップデート 3 では、SMI-S 管理対象サポートが以下のように改善されています。

- 単一の SMI-S プロキシ・プロバイダーを使用している複数ストレージ・デバイスのサポート
- SMI-S ストレージ・デバイスに対する追加のディスクバリー・プリファレンスをサポートします。これらのプリファレンスには、SLP ディレクトリ・エージェント・サーバー、SLP 有効範囲、ディスクバリーのタイムアウト、およびブロードキャストかマルチキャストかの選択が含まれます。

### OpenIPMI ドライバーのサポート

IBM Director 5.10 アップデート 3 は、次の Linux<sup>®</sup> ディストリビューションに含まれるオープン・ソース標準の OpenIPMI をサポートします。

- Red Hat Enterprise Linux バージョン 3.0 アップデート 6 以降
- Red Hat Enterprise Linux バージョン 4.0 アップデート 3 以降
- SUSE Linux Enterprise Server 9、service pack 3 以降

これらのシステムには、SP6 マッピング・レイヤーまたは IPMI 専用ドライバーのダウンロードは必要ありません。IBM Director 5.10.3 のインストールにより、OpenIPMI が使用可能になり、適切に構成されます。

### インバンド通信による IP 構成機能

IBM Director 5.10 アップデート 3 では、「サーバー構成マネージャー」タスクを利用し、IBM Director エージェントにより、インバンド通信を使用して、サーバー上のサービス・プロセッサの IP アドレスを構成できます。

インバンド通信を使用してサービス・プロセッサの IP アドレスを構成するには、そのサービス・プロセッサを搭載している管理対象システムにサーバー構成マネージャー・プロファイルを適用します。アウト・オブ・バンド通信を使用するには、サービス・プロセッサである物理プラットフォーム管理対象オブジェクトにサーバー構成マネージャー・プロファイルを適用します。

### 同時リモート制御セッション数の制限機能

IBM Director 5.10 アップデート 3 では、IBM Director サーバーによって随時アクティブにされる同時リモート制御セッション数を制限できます。

同時リモート制御セッション数を制限できるようにするには、IBM Director サーバーおよび IBM Director コンソールのすべてのリモート・インストールを 5.10 アップデート 3 に更新する必要があります。制限は、管理サーバー上の `classes/com/tivoli/twgrcserver/RemoteControl.properties` ファイルに指定します。このファイルの `MaxNumActSessions` プロパティの値が、許容されているリモート制御セッション数より 1 大きい値になるように変更し

ます。例えば、同時リモート制御セッションの数を 5 に制限するためには、プロパティー宣言を MaxNumActSessions=6 に変更し、この変更後に IBM Director サーバーを再始動する必要があります。

## セキュリティ強化

IBM Director 5.10 アップデート 3 では、IPMI 2.0 のサポートにより、いくつかの管理対象システムのセキュリティが改善されています。

IBM Director 5.10 アップデート 3 には、以下の管理対象システムの拡張リモート管理制御プロトコル (RMCP+) を使用するインテリジェント・プラットフォーム管理インターフェース (IPMI) 2.0 通信のサポート機能が含まれています。

- IBM System x™ 3400
- IBM System x3500
- IBM System x3550
- IBM System x3650
- IBM System x3800
- IBM System x3850
- IBM System x3950

## IBM Director での使用がサポートされる追加データベース・バージョン

IBM Director 5.10 アップデート 3 では、以下のバージョンのデータベースのサポートが追加されます。

- IBM Cloudscape™ (Apache Derby と呼ばれます) V10.1
- IBM DB2® 8.1 フィックスパック 11 付き(IBM DB2 8.2 フィックスパック 4 付きと同等)
- Microsoft® SQL Server 2005
- Microsoft SQL Server 2005 Express 版
- Oracle Server バージョン 10g リリース 2

サポートされているデータベース・アプリケーションおよびそれらが使用できる他のさまざまな IBM Director のインストール済み環境については、IBM Systems Software Information Center のトピック『サポートされているデータベース・アプリケーション』を参照してください。

## 追加のハードウェア・サポート

IBM Director 5.10 アップデート 3 には、以下のハードウェアで IBM Director エージェントを使用するレベル 2 管理のサポートが追加されています。

- IBM IntelliStation® Z Pro モデル 9228
- IBM System x3400
- IBM System x3500
- IBM System x3550
- IBM System x3650
- IBM System x3800
- IBM System x3850
- IBM System x3950

- IBM BladeCenter HS21 (モデル 8853)
- IBM BladeCenter 用 Server Connectivity Module
- IBM BladeCenter 用 Emulex 4 Gb Small-Form-Factor Fibre Channel 拡張カード
- IBM BladeCenter ストレージ拡張ユニット 3
- IBM BladeCenter 用 Cisco 4X InfiniBand Switch Module
- IBM BladeCenter 用 Cisco 4X InfiniBand HCA 拡張カード
- IBM BladeCenter 用 Nortel 10Gb Uplink Ethernet Switch Module

IBM Director 5.10 Update 3 には、以下のハードウェアで IBM Director エージェントを使用するための、IBM 以外のハードウェア・レベル管理サポートが追加されています。このセクション最後の定義を参照してください。

- IBM System x3650 T

ハードウェアのサポート・レベルは次のように定義されています。

### サポート

ほとんどの IBM 製品をサポートします。このレベルの製品では、現行バージョンの IBM Director で使用可能な適用できるフィーチャーおよび機能はすべてサポートされます。例えば、ServeRAID オプションがインストールされていないシステムでは、ServeRAID マネージャーはサポートされません。

### 制限付きサポート

IBM Director が IBM 製品をサポートしますが、1 つ以上のフィーチャーまたは機能が意図するとおりに働かない場合があります。影響を受けるフィーチャーまたは機能については、『既知の制限、制限、問題、および回避策』の『リリース情報』セクションで説明しています。

### IBM 以外のハードウェア・レベルのサポート

IBM Director は、一部のシステムおよび製品に対して、基本的なシステム管理機能を提供します。IBM Director エージェントは、Intel® Wired for Management (WfM) 2.0 仕様を満たす SMBIOS 2.1 以降を持つ IBM 以外の Intel ベースまたは AMD ベースのシステムにこのレベルのサポートを提供します。これらの機能およびフィーチャーには、Asset ID™、CIM ブラウザー、ディスクバリー、ファイル転送、インベントリー (ソフトウェア)、電源管理、プロセス管理、リモート制御、リモート・セッション、リソース・モニター、SNMP エージェントの SNMP イベント、SNMP ブラウザー、およびソフトウェア配布などが含まれます。

IBM Director で管理できるサポート対象ハードウェアおよびソフトウェアの完全なリストについては、IBM Systems Software Information Center を参照してください。

---

## 製品修正履歴

このセクションでは、IBM Director 5.10 アップデート 3 により解決された制限と問題について記載します。

## プログラム診断依頼書

次のプログラム診断依頼書 (APAR) は、IBM Director5.10 アップデート 3 では解決しています。

### IC47586

非マップ式 SNMP トラップの拡張属性を基準として使用するイベント・アクション・プラン・フィルターが失敗した。

### IC47691

リソース・モニター・タスクがエクスポートされたときに使用不可になる。リソース・モニターしきい値が、タスクがインポートされたときに使用可能になる。

### IC47789

デフォルト・ゲートウェイを指定していないと、Linux を実行している管理対象システムのネットワーク・インターフェース・カードに関して誤ってオンライン状況が報告される。

### IC48489

Windows® を実行している管理対象システムに 2 つのアダプターが取り付けられていると、1 つの QLA2340 ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプターに関して誤りのインベントリー・レポートが作成される。

### IC48621

多数のレベル 0 管理対象オブジェクトの存在検査を行うと、IBM Director サーバーがメモリー不足エラーで停止する。また、多数のレベル 0 管理対象オブジェクトのユニキャスト・ディスカバリーで、指定したユニキャスト範囲内の管理対象オブジェクトの一部が見つからない場合がある。

### IC48625

正しいユーザー ID とパスワードを入力しても、パスワードが 14 文字を超えていると、レベル 0 の管理対象システムのアンロック要求が正常に行われない。

### IC49012

IBM Director 5.10 によるレベル 0 管理対象システムのディスカバリーで、以下の処理不能な例外が発生することがある。この例外は TWGServer.err ファイルから表示できる。

例外: java.lang.IllegalArgumentException

### IC49059

イベント・テキストの長さが 511 文字を超えると、Genevent コマンドでイベントが作成されない。IBM Director サーバーは、イベント記述テキストが 1023 文字を超えるイベントの処理または記録を行わない。

### IC49141

2 回目のログイン・プロンプトで正しくないパスワードを入力した場合、Web ベースのアクセスを行うと、ブラウザの機能が停止する。

注: ユーザー認証に失敗した場合に、ブラウザを使用不可にするのは Web ベース・アクセスのセキュリティー・メカニズムです。修正により、ブラウザの処理が強制停止されるまで、パスワードの入力を最大 5 回試みることができます。

#### IC49154

System x 管理サーバーで開始された IBM Director サーバーが予期しない停止をする。

#### IC49155

System x 管理サーバー上の IBM Director サーバーの開始が遅い。特に IBM Director が多数の管理オブジェクトを管理している場合に遅くなる。

#### IC49156

IBM Director コンソールの詳細表示で表示する TCP/IP ホスト属性を選択した場合に、IBM Director が多数のレベル 1 管理対象システムを管理していると、レベル 1 管理システムではタスクが開始せず、レベル 1 管理対象システムの詳細が IBM Director コンソールに表示されない。

#### IC49164

管理サーバーで定義されているロケールと異なるロケールのシステムに SNMP トラップを送信するために、イベント・アクション・プランの「SNMP トラップを IP ホストに送信」アクションを使用すると、「重大度」および「カテゴリー」フィールドが変換されない。英語以外のロケールを持つ管理サーバーから、ロケールとして英語が設定された IP ホストにトラップを送信すると、これらのフィールドは、ユーザーが読み取り可能なテキストではなく、UTF-8 数値データとして表示される。

#### IC49174

レベル 0 管理対象システムのディスクバリーまたは存在検査を行うと、IBM Director サーバーで以下の処理不能な Java 例外が起きることがある。

例外: `java.lang.ArrayIndexOutOfBoundsException: 16`

#### IC49180

イベント・アクション・プラン内で、イベント置換変数としてイベント詳細キーワードを使用すると、キーワードが SNMP オブジェクト ID のように、ピリオド (.) を含んでいると、そのプランが機能しない。このタイプのキーワードが使用されていると、IBM Director は、「適用外」の値を返す。

#### IC49199

IBM BladeCenter HS20 のように、ベースボード管理コントローラーを持つ管理対象システムについて、センサーがしきい値より低い値を報告すると、IBM Director エージェントは、センサー値を 0 として報告する。

#### IC49216

イベント・アクション計画ビルダーで、フィルター・イベントにイベント・テキストを入力できない。

イベント・アクション計画ビルダーを使用してフィルターを作成する場合に、「イベント・テキスト」ページでテキストの入力が許可されない。そのため、イベント・テキストをフィルター基準として使用するフィルターを作成できない。

#### IC49539

IBM Director をバージョン 5.10 にアップグレードすると、アップグレード前に作成したソフトウェア配布パッケージが、「すべてのソフトウェア配布パッケージ」メニューには表示されるが、カテゴリー・エディターの「使用可能パッケージ」ペインにはリストされない。

### IC49550

管理対象システムを手動で追加すると、IBM Director コンソールが `java.lang.NullPointerException` エラーで予期せずに閉じる。

### IC49613

IBM Director サーバーは、有効な IP アドレス値を含まない管理モジュールからプロファイルへ送信されたアラートを受信すると、停止する。

### IC49615

管理対象システムに IBM Director エージェント バージョン 5.10.1 をインストールした後で、ServeRAID マネージャー extension をインストールすることができない。次のメッセージが表示される。

Error - Can not install you must have IBM Director 5.10 Server/Agent Install

## ディスクバリーおよびインベントリー・タスク

- 多数の管理対象オブジェクトの存在検査が行われると、IBM Director サーバーが、処理不能な例外エラーを生成し、停止する。
- 検出されたハードウェア管理コンソールへのアクセスを要求すると、IBM Director サーバーがシャットダウンする。
- 同一モデルに対して 2 つのスイッチがあり、同じ固有 ID があると、IBM Director は、いずれか 1 つのスイッチしか検出し、管理することができない。
- z/VM<sup>®</sup> Manageability Access Point 上のインベントリー・コレクションが、正常終了メッセージの代わりに「no data」メッセージを戻す。
- ストレージ・デバイスを追加し、アンロックしてから、削除すると、IBM Director 内の同じストレージ・デバイスが追加はできるが、アンロックできなくなる。
- ストレージ管理対象オブジェクトをアンロックし、オフラインにして、パスワードを変更した場合、IBM Director で、正しくないパスワードを使用してそのオブジェクトを再度アンロックしようとする、IBM Director サーバーが停止し、処理不能な例外エラーが発生する。
- 「ソフトウェア → インストール・パッケージ」内のインベントリー照会にサイズが正しくない列がある。

## インストール

- i5/OS<sup>®</sup> を実行しているシステムにインストールした IBM Director エージェントが自動的に開始しない。IBM Director エージェントは、インストール後に開始する。
- IBM Director コンソールが SUSE Linux Enterprise サーバー 8.3 からアンインストールされるときに、`twgconsole.profile` ファイルが削除されない。
- IBM Director サーバーがインストールまたは更新されるときに、`¥IBM¥Director¥proddata¥snmp¥switchmgt` ディレクトリーが削除される (既存の場合) か作成されません。結果として、IBM SNMP ノードで、管理情報ベース (MIB) データが使用できなくなります。
- ソフトウェア配布 (Premium Edition) で、i5/OS を実行している管理対象システムにソフトウェアを配布するためのカスタム・パッケージを作成すると、ソフトウェア配布タスクは、「カスタム・パッケージの作成」ウィンドウ: i5/OS ページで指定された環境変数の値でなく名前を使用する。

## 各種

- OpenSSL バージョン 0.9.7g と IBM Director が一緒に使用されているため、ポート 5989 にセキュリティーのぜい弱性がある。このセキュリティー問題の説明については、[www.securityfocus.com/bid/8732/solution/](http://www.securityfocus.com/bid/8732/solution/)を参照してください。
- フォント・サイズを「特大」にすると、ServeRAID マネージャーのテーブル内の情報が一部見えなくなる。
- IBM Director を UNIX ベースのシステムにインストールしている場合に、データベース構成ツールが実行されないと、「サーバー・プリファレンス」ウィンドウの「データベース」ページに正しくない情報が表示される。
- i5/OS または Linux を実行している管理サーバーの IBM Director SNMP ブラウザーで sysName 値を編集することができない。
- ラック・マネージャー内のラックを名前変更しても、ラック・ビューに古いラック名が依然として表示される。
- 競合するインポートがあるイベント・アクション・プランをインポートすると、「アクション・プランのインポート (Import Action Plan)」ウィンドウに競合するインポートがすべて表示されるのではなく、最初の競合のみ表示されることがある。
- コンソール・プリファレンス ウィンドウがオープンしていると、IBM Director コンソールがシャットダウンすることがある。





---

## 第 2 章 インストールおよびアップグレードの情報

---

### 一般的なインストールに関する注意

ここでは、IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 のインストールおよびアップグレードについての一般情報を説明します。

IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 は System p™ では使用できません。

インストールについては、「*IBM Director* インストールおよび構成ガイド」を参照してください。この資料を参照するには、IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_main.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_main.html)) にアクセスしてください。

---

### IBM Director 5.10 アップデート 3 コンポーネントのバージョン互換性

IBM Director の前のバージョンと同様に、以下の規則が IBM Director コンポーネントのバージョン互換性に適用されます。

- IBM Director サーバーおよび IBM Director コンソールのバージョンは、別のシステムにインストールされている場合でも同じでなければなりません。
- 同一システムにインストールされたコンポーネント (IBM Director コンソールおよび IBM Director エージェントなど) のバージョンは同じでなければなりません。
- IBM Director サーバーのバージョンは必ず、管理対象システムにインストールされたすべての IBM Director エージェントまたは IBM Director コア・サービスのバージョン以降でなければなりません。

以下の規則は、現実的な結果を示唆しています。

- IBM Director サーバー バージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードする場合は、IBM Director コンソールのインスタンスもすべてアップグレードする必要があります。
- どの管理対象システムでも IBM Director エージェント バージョン 5.10 アップデート 3 または IBM Director コア・サービス バージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードする場合は、IBM Director サーバー、および IBM Director コンソールのすべてのインスタンスをアップグレードする必要があります。

**注:** System p™ 上の IBM Director サーバーは、バージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードできないため、System p 上の IBM Director サーバーを使用して、IBM Director エージェント バージョン 5.10 アップデート 3 または IBM Director コア・サービス バージョン 5.10 アップデート 3 を管理することはできません。System p 上の IBM Director サーバーによる管理が必要な場合は、IBM Director エージェントまたは IBM Director コア・サービスをアップグレードしないでください。

- 必ずしも IBM Director エージェントまたは IBM Director コア・サービスのすべてのインスタンスをアップグレードしなくても、IBM Director サーバー バージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードできます。

IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 の各コンポーネントと互換性のある IBM Director コンポーネントの完全なリストについては、表 1 を参照してください。

表 1. IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 コンポーネントと、その他のコンポーネント・バージョンとの互換性

IBM Directorバージョン 5.10 アップデート 3 コンポーネント	IBM Director サーバーの互換バージョン	IBM Director コンソールの互換バージョン	IBM Director エージェントの互換バージョン	IBM Director コア・サービスの互換バージョン
IBM Director サーバー 5.10.3	N/A	5.10.3	5.10.3、5.10.2、5.10.1、5.10、4.22、4.21、4.20.2、4.20、4.12、4.11、4.10.2、4.10	5.10.3、5.10.2、5.10.1、5.10
IBM Director コンソール 5.10.3	5.10.3	N/A	5.10.3、5.10.2、5.10.1、5.10、4.22、4.21、4.20.2、4.20、4.12、4.11、4.10.2、4.10	5.10.3、5.10.2、5.10.1、5.10
IBM Director エージェント 5.10.3	5.10.3 以降	5.10.3 以降	N/A	N/A
IBM Director コア・サービス 5.10.3	5.10.3 以降	5.10.3 以降	N/A	N/A

## アップグレード・パッケージの入手

インストール手順を開始する前に、バージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするすべてのコンポーネントのアップグレード・パッケージを入手します。

注: IBM Director コンソールと IBM Director サーバーは常に同一バージョンの必要があります。片方をアップグレードするときは他方もアップグレードする必要があります。

IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 は、以下の CD-ROM メディアで入手できます。

Intel および AMD ベースのハードウェア用 IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3

Linux on System x™、NetWare、および Windows オペレーティング・システムで実行する IBM Director コンポーネントのインストールおよびアップグレード用パッケージを含みます。

IBM Director バージョン 5.10 アップデート 3 は、以下のセクションで説明されているようにダウンロードして入手することもできます。

**注:** Linux が稼働する管理コンソールで IBM Director コンソールおよび IBM Director エージェントのインストール済み環境と一緒にアップグレードする場合、IBM Director コンソールのインストール・パッケージをダウンロードして使用する必要があります。

IBM Director 5.10 アップデート 3 用アップグレード・パッケージをダウンロードするには、以下の手順に従ってください。

1. IBM Director ダウンロード Web サイトの [www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems\\_management/xseries\\_sm/dwnl.html](http://www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/xseries_sm/dwnl.html) にナビゲートします。
2. リストから **System x** および **BladeCenter** 用の **IBM Director 5.10** を選択し、要求情報を入力して、**Submit** をクリックします。
3. 「**現行バージョン**」の見出しの下の「**IBM Director 5.10 アップデート 3**」をクリックします。
4. ダウンロードするパッケージのリンクをクリックします。

表 2. System x および BladeCenter 用 IBM Director 5.10 のダウンロード・サイトで入手可能な IBM Director アップグレード・パッケージ

オペレーティング・システム	コンポーネント	パッケージ・ファイル名
i5/OS	IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 (i5/OS 用)	dir5.10.3_agent_i5OS.zip
	IBM Director サーバー 5.10 アップデート 3 for i5/OS (アップグレードのみ)	dir5.10.3_server_patch_i5os.zip
Linux for Intel Itanium (64-bit)	IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 (Linux for Intel Itanium (64-bit) 用)	dir5.10.3_agent_linux64.tar
Linux on System x™	IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 for Linux on System x	dir5.10.3_agent_linux.tar
	IBM Director コンソール 5.10 アップデート 3 for Linux on System x	dir5.10.3_console_linux.tar
	IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 3 for Linux on System x	dir5.10.3_coreservices_linux.tar
	IBM Director サーバー 5.10 アップデート 3 for Linux on System x	dir5.10.3_server_linux.tar

表 2. System x および BladeCenter 用 IBM Director 5.10 のダウンロード・サイトで入手可能な IBM Director アップグレード・パッケージ (続き)

オペレーティング・システム	コンポーネント	パッケージ・ファイル名
Linux on System z™	Linux on System z 用の z/VM 管理プロファイルを実装する z/VM CIM インストールメンテーション用の IBM Director 5.10 アップデート 3 アップグレード	dir5.10.3_zvmmap-agent-linux-s390.tar
	IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 (Linux on System z 用)	dir5.10.3_agent-linux-s390.tar
	IBM Director コンソール 5.10 アップデート 3 (Linux on System z 用)	dir5.10.3_console-linux-s390.tar
	IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 3 (Linux on System z 用)	dir5.10.3_coreservices-agent-linux-s390.tar
	IBM Director サーバー 5.10 アップデート 3 (Linux on System z 用)	dir5.10.3_server-linux-s390.tar
NetWare	IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 (NetWare 用)	dir5.10.3_agent_netware.zip
Windows	IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 (Windows 32 ビット)	dir5.10.3_agent_windows.zip
	IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 (Intel Itanium® の Windows 64 ビット用)	dir5.10.3_agent_windows64.zip
	IBM Director コンソール 5.10 アップデート 3 (Windows 用) アップグレードのみ	dir5.10.3_console_patch_windows.zip
	IBM Director コンソール 5.10 アップデート 3 (Windows 用) フルインストール	dir5.10.3_console_windows.zip
	IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 3 (Windows 用)	dir5.10.3_coreservices_windows.zip
	IBM Director サーバー 5.10 アップデート 3 (Windows 用) アップグレードのみ	dir5.10.3_server_patch_windows.zip
	IBM Director サーバー 5.10 アップデート 3 (Windows 用) フルインストール	dir5.10.3_server_windows.zip

**注:**

- a. z/VM センター extension の情報については、「*z/VM Center for IBM Director Version 5.10 Update 3 Release Notes*」を参照してください。
- b. IBM Director ServeRAID マネージャーの情報については、「*IBM Director ServeRAID マネージャー V8.30 リリース情報*」を参照してください。

- c. IBM Director 外部アプリケーション起動ウィザードの情報については、「IBM Systems Software Information Center」([http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/eal\\_5.10.3/frj0\\_main.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/eal_5.10.3/frj0_main.html))を参照してください。
- d. サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールの情報については、IBM Systems Software Information Center ([http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_sspt.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_sspt.html)) の『IBM サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールのインストール』を参照してください。
- e. ハードウェア管理コンソール extension の情報については、「*IBM Director* ハードウェア管理コンソール extension バージョン 5.10 アップデート 3 リリース情報」を参照してください。

---

## IBM Director サーバーのアップグレード

このセクションでは IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードする手順について説明します。

### i5/OS 上の IBM Director サーバーのアップグレード

i5/OS 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 3 パッケージは、既存の IBM Director サーバー バージョン 5.10、5.10.1、または 5.10.2 インストール済み環境を IBM Director サーバー 5.10.3 に、ユーザー構成データを確保しつつアップグレードします。

### RSTLICPGM コマンドを使用する i5/OS 上の IBM Director サーバーのアップグレード

Virtualization Engine™ Console を使用する Virtualization Engine 環境で IBM Director を使用しない場合は、Restore Licensed Program (RSTLICPGM) コマンドを使用して IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードできます。i5/OS 上の IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. dir5.10.3\_server\_patch\_i5os.zip ファイルの内容をローカル・ディレクトリーに解凍します。このアーカイブ・ファイルには SAVDR100MM.sav ファイルが含まれています。
2. i5/OS システムで次のコマンドを入力して **Enter** を押し、SAVDR100MM.sav ファイルの保管ファイルを作成します。  

```
CRTSAVF FILE(QGPL/SAVDR100MM)
```
3. dir5.10.3\_server\_patch\_i5os.zip ファイルの内容を解凍したディレクトリーから、i5/OS システムへの FTP セッションを開始し、以下のコマンドを入力し、それぞれの後に **Enter** を押します。  

```
binary  
  
put FILES/SAVDR100MM.sav /qsys.lib/qgpl.lib/SAVDR100MM.file
```
4. コマンド・プロンプトから次のコマンドを入力して **Enter** を押し、IBM Director サーバーを停止します。  

```
QSH CMD('/qibm/userdata/director/bin/twgend')
```
5. コマンド・プロンプトから次のコマンドを入力して **Enter** を押し、IBM Director サーバーが停止したことを確認します。

```
QSH CMD('/qibm/userdata/director/bin/twgstat')
```

6. i5/OS システムで次のコマンドを入力して **Enter** を押し、アップグレードをインストールします。

```
RSTLICPGM LICPGM(5722DR1) DEV(*SAVF) SAVF(QGPL/SAVDR100MM)
```

7. コマンド・プロンプトから次のコマンドを入力して **Enter** を押し、IBM Director サーバーを再始動します。

```
QSH CMD('/qibm/userdata/director/bin/twgstart  
'')
```

8. コマンド・プロンプトから次のコマンドを入力して **Enter** を押し、IBM Director サーバーが再始動したことを確認します。

```
QSH CMD('/qibm/userdata/director/bin/twgstat')
```

9. SAVDR100MM.sav ファイルを削除するには、次のコマンドを入力して **Enter** を押しします。

```
DLTF FILE(QGPL/SAVDR100MM)
```

IBM Director サーバーをアップグレードした後、他のシステムの IBM Director コンソールのすべてのインスタンスを同じバージョンにアップグレードする必要があります。詳しくは、19 ページの『IBM Director コンソールのアップグレード』を参照してください。

## Virtualization Engine アップデート・インストーラーを使用する i5/OS 上の IBM Director サーバーのアップグレード

Virtualization Engine Console を使用する Virtualization Engine 環境で IBM Director を使用する場合は、Virtualization Engine アップデート・インストーラーを使用して、IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードできます。i5/OS 上の IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. i5/OS 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 3 アップグレード・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. 管理サーバーに /QIBM/UserData/VE2/Updates ディレクトリーがまだ作成されていない場合はそれを作成し、アップグレード・パッケージを /QIBM/UserData/VE2/Updates ディレクトリーに移動します。
3. Virtualization Engine アップデート・インストーラーを入手し、管理サーバーにインストールします。手順については、  
<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/veicinfo/eicarfixparent.htm>  
を参照してください。
4. Virtualization Engine アップデート・インストーラーのインストール後、IBM Director サーバーをアップグレードするために次のコマンドを入力してください。

```
java -jar /QOpenSys/QIBM/ProdData/ci/gmi/lib/gmi.jar  
-discriminant /QIBM/ProdData/VE2  
-mdvFile /QIBM/UserData/VE2/Updates/dir5.10.3_server_patch_i5os.zip  
-silent
```

5. コマンド・プロンプトから次のコマンドを入力して **Enter** を押し、IBM Director サーバーを再始動します。

```
QSH CMD('/qibm/userdata/director/bin/twgstart  
)
```

6. コマンド・プロンプトから次のコマンドを入力して **Enter** を押し、IBM Director サーバーが再始動したことを確認します。

```
QSH CMD(' /qibm/userdata/director/bin/twgstat')
```

IBM Director サーバーをアップグレードした後、他のシステムの IBM Director コンソールのすべてのインスタンスを同じバージョンにアップグレードする必要があります。詳しくは、19 ページの『IBM Director コンソールのアップグレード』を参照してください。

## Linux 上の IBM Director サーバーのアップグレード (System x)

Linux on System x 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 3 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director サーバー バージョン 4.10、4.20、4.21、4.22、5.10、5.10.1、または 5.10.2 インストール環境を IBM Director サーバー 5.10.3 に、ユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

System x 上の Linux の IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. System x 上の Linux 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Director サーバーを停止します。コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。

```
/opt/ibm/director/bin/twgstop
```

3. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_server.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_server.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、`dir5.10.3_server_linux.tar` パッケージをインストールします。

4. IBM Director サーバーを再始動します。コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。

```
/opt/ibm/director/bin/twgstart
```

IBM Director サーバーのバージョン 5.10 アップデート 3 をインストールすると、IBM Director コンソールおよび IBM Director エージェントが管理サーバーに自動的にインストールされます。IBM Director サーバーをアップグレードした後、他のシステムの IBM Director コンソールのすべてのインスタンスを同じバージョンにアップグレードする必要があります。詳しくは、19 ページの『IBM Director コンソールのアップグレード』を参照してください。

## Linux 上の IBM Director サーバーのアップグレード (System z)

**注:** ターゲット・システムが z/VM Manageability Access Point である場合は、25 ページの『z/VM Manageability Access Point のアップグレード』の手順に従ってください。

Linux for System z 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 3 パッケージは、既存の IBM Director サーバー バージョン 5.10 または 5.10.1 インストール済み環境を IBM Director サーバー 5.10.3 に、ユーザー構成データを確保しつつアップグレードします。

System z 上の Linux 用 IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. Linux for System z 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Director サーバーを停止します。コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。

```
/opt/ibm/director/bin/twgstop
```

3. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_server.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_server.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、`dir5.10.3_server-linux-s390.tar` パッケージをインストールします。
4. IBM Director サーバーを再始動します。コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。

```
/opt/ibm/director/bin/twgstart
```

IBM Director サーバーをアップグレードした後、他のシステムの IBM Director コンソールのすべてのインスタンスを同じバージョンにアップグレードする必要があります。詳しくは、19 ページの『IBM Director コンソールのアップグレード』を参照してください。

## Windows 上の IBM Director サーバーのアップグレード

Windows 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 3 パッケージは、既存の IBM Director サーバー バージョン 5.10、5.10.1、または 5.10.2 インストール済み環境を IBM Director サーバー 5.10.3 にアップグレードします。

Windows 上の IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. Windows 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 3 アップグレード・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. `dir5.10.3_server_patch_windows.zip` パッケージのファイルを解凍します。
3. アップグレード・パッケージから解凍したアップグレード・ファイルの 1 つを実行します。このパッケージには、`.exe` と `.msp` ファイルの両方が含まれています。Windows のインストーラー・テクノロジーに習熟した上級者は `.msp` ファイルを使用し、他のユーザーは `.exe` ファイルを使用します。

IBM Director サーバーをアップグレードした後、他のシステムの IBM Director コンソールのすべてのインスタンスを同じバージョンにアップグレードする必要があります。詳しくは、19 ページの『IBM Director コンソールのアップグレード』を参照してください。



---

## IBM Director コンソールのアップグレード

このセクションでは IBM Director コンソールをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードする手順について説明します。

### Linux 上の IBM Director コンソールのアップグレード (System x)

Linux on System x 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 3 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director コンソール バージョン 4.10、4.20、4.21、4.22、5.10、5.10.1、または 5.10.2 インストール環境を IBM Director コンソール 5.10.3 に、ユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

**注:** Linux が稼働する管理コンソールで IBM Director コンソールおよび IBM Director エージェントのインストール済み環境を一緒にアップグレードする場合、IBM Director コンソールのインストール・パッケージをダウンロードして使用する必要があります。

System x 上の Linux の IBM Director コンソールをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. System x 上の Linux 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_console.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_console.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、`dir5.10.3_console_linux.tar` パッケージをインストールします。

IBM Director エージェントが管理コンソールにインストールされていると、このパッケージは IBM Director エージェントのインストール済み環境もバージョン 5.10.2 にアップグレードします。IBM Director エージェントがインストールされていない場合、このパッケージは IBM Director コンソールをインストールあるいはアップグレードするだけです。

### Linux 上の IBM Director コンソールのアップグレード (System z)

**注:** ターゲット・システムが z/VM Manageability Access Point である場合は、25 ページの『z/VM Manageability Access Point のアップグレード』の手順に従ってください。

Linux for System z 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 3 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director コンソール バージョン 5.10 または 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director コンソール 5.10.3 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

System z 上の Linux 用 IBM Director コンソールをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. System z 上の Linux 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_console.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_console.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、`dir5.10.3_console-linux-s390.tar` パッケージをインストールします。

## Windows 上の IBM Director コンソールのアップグレード

Windows 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 3 パッケージは、既存の IBM Director コンソール バージョン 5.10、5.10.1、または 5.10.2 インストール済み環境を IBM Director コンソール 5.10.3 にアップグレードします。

Windows 上の IBM Director コンソールをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. Windows 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. `dir5.10.3_console_patch_windows.zip` パッケージのファイルを解凍します。
3. アップグレード・パッケージから解凍したアップグレード・ファイルの 1 つを実行します。このパッケージには、`.exe` と `.msp` ファイルの両方が含まれています。Windows のインストーラー・テクノロジーに習熟した上級者は `.msp` ファイルを使用し、他のユーザーは `.exe` ファイルを使用します。

---

## IBM Director エージェントのアップグレード

このセクションでは IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードする手順について説明します。

### i5/OS 上の IBM Director エージェントのアップグレード

i5/OS 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェント バージョン 4.10、4.20、4.21、4.22、5.10、5.10.1、または 5.10.2 インストール環境を IBM Director エージェント 5.10.3 に、ユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

i5/OS 上の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. i5/OS 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. ソフトウェア配布を使用して `dir5.10.3_agent_i5OS.zip` パッケージをインストールします。IBM Systems Software Information Center

([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0\\_t\\_upgrading\\_ibm\\_director\\_agent\\_using\\_the\\_software\\_distribution\\_task.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0_t_upgrading_ibm_director_agent_using_the_software_distribution_task.html)) にある手順を参照します。手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えます。

注: IBM Director エージェントを i5/OS 管理対象システムに Restore Licensed Program (RSTLICPGM) コマンドを使用してインストールした場合は、IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_agent\\_using\\_rstlicpgm.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_agent_using_rstlicpgm.html)) にあるインストール手順を参照し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えます。

## Linux 上の IBM Director エージェントのアップグレード (System x)

Linux on System x 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェント バージョン 4.10、4.20、4.21、4.22、5.10、5.10.1、または 5.10.2 インストール環境を IBM Director エージェント 5.10.3 に、ユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

注: IBM Director エージェントが管理コンソールにインストールされている場合は、あらためて IBM Director エージェントをアップグレードする必要はなく、ダウンロードした IBM Director コンソールのアップグレード・パッケージを適用すると、IBM Director エージェントのインストール済み環境もバージョン 5.10.3 にアップグレードされます。

System x 上の Linux の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. System x 上の Linux 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0\\_t\\_installinglibm\\_director\\_agent.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0_t_installinglibm_director_agent.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、`dir5.10.3_agent_linux.tar` パッケージをインストールします。

## Linux 上の IBM Director エージェントのアップグレード (System z)

注: ターゲット・システムが z/VM Manageability Access Point である場合は、25 ページの『z/VM Manageability Access Point のアップグレード』の手順に従ってください。

Linux for System z 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェント バージョ

ン 5.10 または 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director エージェント 5.10.3 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

System z 上の Linux の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. System z 上の Linux 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0\\_t\\_installingIbm\\_director\\_agent.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0_t_installingIbm_director_agent.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、`dir5.10.3_agent-linux-s390.tar` パッケージをインストールします。

## Linux (64 bit) 上の IBM Director エージェントのアップグレード (Intel Itanium システム)

Intel Itanium システム上の Linux (64 ビット) 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェント バージョン 4.10、4.20、4.21、4.22、5.10、5.10.1、または 5.10.2 インストール環境を IBM Director エージェント 5.10.3 に、ユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

注: このパッケージは Itanium 2 サポート専用です。

Intel Itanium システム上の Linux (64 bit) の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. Intel Itanium システム上の Linux (64 bit) 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0\\_t\\_installingIbm\\_director\\_agent.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0_t_installingIbm_director_agent.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、`dir5.10.3_agent_linux64.tar` パッケージをインストールします。

## NetWare 上の IBM Director エージェントのアップグレード

NetWare 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェント バージョン 5.10、5.10.1、または 5.10.2 のインストール済み環境を IBM Director エージェント 5.10.3 に、ユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

NetWare 上の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. NetWare 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center  
([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installinglibm\\_director\\_agent.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installinglibm_director_agent.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、`dir5.10.3_agent_netware.zip` パッケージをインストールします。

## Windows (32 ビット) 上の IBM Director エージェントのアップグレード

Windows (32 ビット) 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェントバージョン 4.10、4.20、4.21、4.22、5.10、5.10.1、または 5.10.2 インストール環境を IBM Director エージェント 5.10.3 に、ユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

Windows (32 ビット) 上の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. Windows (32 ビット) 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center  
([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installinglibm\\_director\\_agent.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installinglibm_director_agent.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、`dir5.10.3_agent_windows.zip` パッケージをインストールします。

## Windows (64 bit) 上の IBM Director エージェントのアップグレード (Intel Itanium システム)

Windows for Intel Itanium (64-bit) 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェントバージョン 4.10、4.20、4.21、4.22、5.10、5.10.1、または 5.10.2 インストール環境を IBM Director エージェント 5.10.3 に、ユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

注: このパッケージは Itanium 2 サポート専用です。

Intel Itanium システム上の Windows (64 bit) の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. Intel Itanium システム上の Windows (64 bit) 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center  
([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installinglibm\\_director\\_agent.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installinglibm_director_agent.html)) にあるインストール手順を使用し、手順

で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、  
dir5.10.3\_agent\_windows64.zip パッケージをインストールします。

---

## IBM Director コア・サービスのアップグレード

このセクションでは IBM Director コア・サービスをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードする手順について説明します。

### Linux 上の IBM Director コア・サービスのアップグレード (System x)

Linux on System x 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 3 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director コア・サービスバージョン 5.10、5.10.1、または 5.10.2 のインストール済み環境を IBM Director コア・サービス 5.10.3 に、ユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

System x 上の Linux の IBM Director コア・サービスをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. System x 上の Linux 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_core\\_services.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_core_services.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、dir5.10.3\_coreservices\_linux.tar パッケージをインストールします。

### Linux 上の IBM Director コア・サービスのアップグレード (System z)

注: ターゲット・システムが z/VMManageability Access Point である場合は、25 ページの『z/VM Manageability Access Point のアップグレード』の手順に従ってください。

Linux for System z 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 3 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director コア・サービスバージョン 5.10 または 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director コア・サービス 5.10.3 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

System z 上の Linux 用 IBM Director コア・サービスをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. System z 上の Linux 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/))

fqm0\_t\_installing\_core\_services.html) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、dir5.10.3\_coreservices-agent-linux-s390.tar パッケージをインストールします。

## Windows 上の IBM Director コア・サービスのアップグレード

Windows 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 3 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director コア・サービス バージョン 5.10、5.10.1、または 5.10.2 のインストール済み環境を IBM Director コア・サービス 5.10.3 に、ユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

Windows 上の IBM Director コア・サービスをバージョン 5.10 アップデート 3 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. Windows 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 3 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_core\\_services.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_core_services.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、dir5.10.3\_coreservices\_windows.zip パッケージをインストールします。

---

## z/VM Manageability Access Point のアップグレード

このトピックは、z/VM Manageability Access Point 上で IBM Director コンポーネントをアップグレードする方法について説明します。z/VM Manageability Access Point 上で IBM Director コンポーネントをアップグレードするときには、共通情報モデル・オブジェクト・マネージャー CIMOM) のデータ・リポジトリをバックアップしておくことをお勧めします。

z/VM Manageability Access Point は、z/VM ゲスト仮想マシンで実行される Linux システムで、z/VM 管理のために共通情報モデル (CIM) プロファイル (z/VM 管理プロファイル) を実装します。z/VM Manageability Access Point について詳しくは、[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/vsd0\\_c\\_map.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/vsd0_c_map.html) を参照してください。

z/VM Manageability Access Point には常に、1 つ以上の IBM Director エージェントがインストールされています。また、オプションで IBM Director サーバーをインストールすることもできます。

z/VM Manageability Access Point 上で IBM Director コンポーネントをアップグレードするには、以下のタスクを行ってください。

1. CIMOM データ・リポジトリのバックアップを作成します。
2. IBM Director エージェントまたは IBM Director サーバーの該当するコンポーネントをアップグレードします。
3. z/VM Manageability Access Point を実装する z/VM CIM インストールメンテーションをアップグレードします。

アップグレードに失敗した場合は、IBM Director エージェントまたは IBM Director サーバー、および z/VM 管理プロファイルを実装する z/VM CIM インストールメンテーションを新たにインストールし、バックアップから CIMOM データ・リポジトリをリストアします (27 ページの『失敗したアップグレードのリカバリー』を参照)。

## CIMOM データ・リポジトリのバックアップを作成

ここでは、z/VM Manageability Access Point 上で CIMOM データ・リポジトリのバックアップを作成する方法について説明します。

z/VM Manageability Access Point 上の端末セッションで、以下の手順に従って、CIMOM データ・リポジトリのバックアップを作成します。

1. 次のコマンドを入力し、**Enter** を押して、CIMOM が実行しないようにします。

```
/etc/init.d/dacimom stop
```

2. 次のコマンドを入力し、**Enter** を押して、CIMOM データ・リポジトリのバックアップを含む tar ファイルを作成します。

```
tar czf repository_backup.tgz -C inst_dir/cimom/repository
```

*inst\_dir* は、IBM Director サーバーまたは IBM Director エージェントのインストール先である z/VM Manageability Access Point 上のディレクトリです。

3. 次のコマンドを入力し、**Enter** を押して、CIMOM を再始動します。

```
/etc/init.d/dacimom start
```

## IBM Director エージェントまたは IBM Director サーバーのアップグレード

ここでは、z/VM Manageability Access Point で IBM Director エージェントまたは IBM Director サーバーをアップグレードする方法について説明します。

IBM Director エージェントまたは IBM Director サーバーをアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. z/VM 管理プロファイルを実装する z/VM CIM インストールメンテーション用インストール・パッケージ、および IBM Director サーバーまたは IBM Director エージェント用のインストール・パッケージを IBM Director のサイトから入手します ([www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems\\_management/ibm\\_director/](http://www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/ibm_director/))。使用可能なインストール・パッケージの概説については、13 ページの表 2 を参照してください。
2. IBM Director サーバーまたは IBM Director エージェントのアップグレードをインストールします。

IBM Director エージェントをアップグレードする場合は、

[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/)

[fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_agent\\_level2\\_on\\_linux\\_for\\_zseries.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_agent_level2_on_linux_for_zseries.html) に示されている手順に従ってください。



IBM Director サーバーをアップグレードする場合は、  
[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_server\\_on\\_linux\\_for\\_zseries.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_server_on_linux_for_zseries.html) に示されている手順に従ってください。

## z/VM 管理プロファイルを実装する z/VM CIM インストールメンターセッションのアップグレード

z/VM 管理プロファイルを実装する z/VM CIM インストールメンターセッションのアップグレードをインストールするには、  
[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/vsd0\\_t\\_install\\_map\\_rpm.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/vsd0_t_install_map_rpm.html) に示されている手順に従ってください。

z/VM CIM インストールメンターセッションをインストールまたはアップグレードするための RPM を入手するには、以下の手順に従ってください。

1. IBM Director ダウンロード Web サイトの  
[www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems\\_management/xseries\\_sm/dwnl.html](http://www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/xseries_sm/dwnl.html) にナビゲートします。
2. リストから **System x** および **BladeCenter** 用の **IBM Director 5.10** を選択し、要求情報を入力して、**Submit** をクリックします。
3. 「**現行バージョン**」の見出しの下の **IBM Director 5.10 Update 3** をクリックします。ダウンロード・パッケージの名前は `dir5.10.3_zvmmap-agent-linux-s390.tar` です。

アップグレードが正常に完了して、z/VM センターが要求どおりに機能し、データ欠落のない納得できるものであれば、CIMOM データ・リポジトリのバックアップを削除することを選択できます。手順については、ステップ 7b (29 ページ) を参照してください。アップグレードが失敗したら、『失敗したアップグレードのリカバリー』の説明に従って処理してください。

## 失敗したアップグレードのリカバリー

ここでは、z/VM Manageability Access Point 上の IBM Director エージェントまたは IBM Director サーバーのアップグレードが失敗した場合に、CIMOM データ・リポジトリのバックアップを使用してリカバリーを行う方法を説明します。

z/VM Manageability Access Point 上の端末セッションで以下の手順に従って、失敗したアップグレードのリカバリーを行ないます。

1. 次のコマンドを入力し、**Enter** を押して、IBM Director をアンインストールします。

```
/opt/ibm/director/bin/diruninstall
```

アンインストール・プロセス中にバックアップされる持続データベースについては、[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0\\_t\\_uninstalling\\_ibm\\_director\\_on\\_linux.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0_t_uninstalling_ibm_director_on_linux.html) を参照してください。

2. アップグレードされた IBM Director バージョンをインストールします。

IBM Director エージェントの場合は、  
[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_agent\\_level2\\_on\\_linux\\_for\\_zseries.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_agent_level2_on_linux_for_zseries.html) に示されている手順に従ってください。

IBM Director サーバーの場合は、  
[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_server\\_on\\_linux\\_for\\_zseries.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_server_on_linux_for_zseries.html) に示されている手順に従ってください。

3. アンインストール・プロセス中にバックアップした持続データベースをリストアします。[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_r\\_cli\\_twgrestore.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_r_cli_twgrestore.html) を参照してください。
4. IBM Director サーバーについては、*inst\_dir/proddata/ZvmCenter.properties* ファイルの有無を確認してください。このファイルがない場合は、[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/vsd0\\_t\\_install\\_key.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/vsd0_t_install_key.html) に示されている手順に従って作成してください。

*inst\_dir* は、IBM Director サーバー がインストールされているディレクトリーです。

5. [publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/vsd0\\_t\\_install\\_map\\_rpm.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/vsd0_t_install_map_rpm.html) に示されている手順に従って、z/VM 管理プロファイルを実装する z/VM CIM インストールメンテーションをインストールします。
6. バックアップされた CIMOM データ・リポジトリーをリストアします。
  - a. 次のコマンドを入力し、**Enter** を押して、CIMOM が実行しないようにします。

```
/etc/init.d/dacimom stop
```

- b. 次のコマンドを入力し、**Enter** を押して、新規インストール環境にインストールされた CIMOM データ・リポジトリーを含むディレクトリーの名前変更を行います。

```
mv inst_dir/cimom/repository inst_dir/cimom/new_repository_unused
```

*inst\_dir* は、IBM Director サーバーまたは IBM Director エージェントがインストールされたディレクトリーです。

- c. 次のコマンドを入力し、**Enter** を押して、CIMOM データ・リポジトリーの新しいディレクトリーを作成します。

```
mkdir inst_dir/cimom/repository
```

- d. 次のコマンドを入力し、**Enter** を押して、バックアップを新しいディレクトリーに `untar` します。

```
tar xzf repository_backup.tgz -C inst_dir/cimom/repository
```

- e. 次のコマンドを入力し、**Enter** を押して、CIMOM を再始動します。

```
/etc/init.d/dacimom start
```

7. (オプション) IBM Director および z/VM センターが要求どおりに機能し、データの欠落がない納得できるものであれば、CIMOM データ・リポジトリーの新旧バックアップをクリーンアップできます。
  - a. 次のコマンドを入力し、**Enter** を押して、名前変更した新しい CIMOM データ・リポジトリーを削除します。

```
rm -rf inst_dir/cimom/new_repository_unused
```

- b. 次のコマンドを入力し、**Enter** を押して、リストアした CIMOM データ・リポジトリのバックアップを削除します。

```
rm repository_backup.tgz
```



---

## 第 3 章 既知の制限、問題、および回避策

ここでは、IBM Director 5.10 アップデート 3 を使用する場合の既知の制限、問題、および回避策について説明します。

---

### 制限

IBM Director 5.10 アップデート 3 には、以下の制限があります。

#### **ハードウェア状況タスクが報告する IBM BladeCenter サーバーの障害発生ドライブの番号が正しくない場合があります。**

この問題は、いずれかのハードウェアにインストールされた LSI Logic Serial Attached SCSI (SAS) 1064 コントローラーが、IBM BladeCenter サーバーのスロット情報を報告しないことが原因で起きます。

実際に劣化または欠落しているドライブの番号を示す LSI BIOS ユーティリティーを使用して、障害の発生したドライブを検査する必要があります。

#### **IBM IntelliStation Z Pro、モデル 9228 は、Linux 上では、Alert Standard Format をサポートしない。**

Linux を実行している管理対象 IBM IntelliStation Z Pro、モデル 9228 で Alert Standard Format (ASF) 構成タスクを開始しようとすると、そのタスクは正常に実行されず、「Agent service not available」というエラー・メッセージを戻します。

#### **IBM IntelliStation Z Pro、モデル 9228 は、CPU の温度が上がった場合の CPU 温度イベントをサポートしない。**

プロセッサ環境 (温度) はプロセッサによって制御されます。これは、IBM IntelliStation Z Pro ハードウェアの制限です。IBM IntelliStation Z Pro については、「MPA > 環境 > 温度」イベントに依存するイベント・アクション・プランは設計しないでください。

#### **IPMI をサポートする管理対象サーバーでは、一部のイベントが「Sensor xx」ハードウェア・イベントとして表示される。**

IBM Director エージェントがインストールされているインテリジェント・プラットフォーム管理インターフェース (IPMI) をサポートする管理対象サーバーでは、一部の管理コントローラー・イベントが説明的でないラベル付き **Sensor xx** (ここで、xx は数値) で IBM Director コンソールに表示されます。

以下のサーバーがこの問題の影響を受けます。

- System x 346
- System x 366
- System x 460

- System x3850

このような動作が起きるのは、管理コントローラーからの追加情報に対するアウト・オブ・バンド要求が正常に実行されず、別の問題を示している可能性がある場合です。調べる必要があると考えられる原因としては以下のものがあります。

- IBM Director が物理プラットフォーム管理対象オブジェクトを検出できなかった。
- 物理プラットフォーム管理対象オブジェクトがアンロックされていなかった。
- 一時的なネットワーク通信の問題 (パケット・ロス) が発生した。
- 管理コントローラーのファームウェアで問題が起きた。

## **複数のイベント・アクション・プランがある場合でも、それぞれの管理対象システムのイベント・アクション・プランに許されるリソース・モニターしきい値は 1 つだけである。**

その値が現行プランにおいて変更された場合は、この制限により予期しない動作や他のイベント・アクション・プランのリソース・モニターしきい値に不要な変更が発生します。

## **IC46865: (Windows システムの場合のみ) カテゴリにカスタム・パッケージを入れてカスタム・パッケージ・エディターでレポート・オプションを使用すると、ソフトウェア配布ジョブが失敗する場合があります。**

「ソフトウェア配布」タスクを使用しているときに、カテゴリの一部にする Windows 用のカスタム・パッケージを作成する場合、カスタム・パッケージ・エディターの「コンピューターの再始動」オプションを使用しないでください。このオプションを使用すると、ソフトウェア配布ジョブが失敗します。その代わりに、カテゴリ・エディターのレポート・オプションを使用してください。

## **インベントリー照会ブラウザーで IBM Director エージェントが IBM Director コア・サービスとして表示される。**

レベル 2: IBM Director エージェントがインストールされていると、インベントリー照会ブラウザーに IBM Director コア・サービスが表示されます。

## **IBM Director コア・サービスがアンインストールされた後に slpd および Linux を実行する管理対象システムがレベル 1 管理対象システムとして誤って検出される。**

IBM Director コア・サービスのアンインストール時に、SLP デーモン (slpd) を使用する管理対象システムは登録抹消されません。これらの管理対象システムには、slpd がデフォルト構成で実行される SUSE Linux Enterprise Server が稼働する多くのサーバーが含まれます。

SLP 登録の有効期限が切れるまで、slpd を使用する管理対象システムは誤ってレベル 1 管理対象システムとして検出されます。通常、これは IBM Director コア・サービスのアンインストールから約 18 時間後に生じます。

## setkvm コマンドに **-owner** オプションを指定すると処理が行われない。

管理プロセッサのコマンドライン・インターフェース・コマンド `setkvm -owner n` (ここで、 $n$  は所有権があると想定されるブレード・サーバーの数) を使用して、KVM (キーボード、ビデオ、およびマウス) の所有者を System p ブレード・サーバーに設定しようとする、このコマンドの正常な完了が示されますが、KVM の所有権は変更されていない。

---

### 問題

IBM Director 5.10 アップデート 3 には、以下の既知の問題があります。

## IBM サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールにより、リソース・エラーがセッション限度を超えた。

管理対象 Qlogic スイッチに対して管理セキュリティが使用可能でない場合に、一連のサーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツール・コマンドを発行すると、リソース・エラーのセッション限度を超える可能性があります。これが起きると予測されるのは、5 分間隔で 15 個を超えるサーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツール・コマンドが発行された場合です。この問題が発生するのは、セキュリティ機能が使用不可であると、セッション・ハンドルが、5 分経過後のタイムアウトになるまで、クリーンアップされないためです。

この問題を解決するには、スイッチに対して管理セキュリティを使用可能にしておく必要があります。この構成については、スイッチに関する資料を参照してください。

## DS4000 シリーズのストレージ・デバイスに関するシステム・ヘルスが正しく報告されない。

### 問題

DS4000™ シリーズのデバイス用に Engenio が提供する SMI-S 1.1 プロバイダーのリリース 9.16.G0.17 がデバイスのヘルス情報を正しく報告しません。

この問題は、DS4000 シリーズのデバイスに関するヘルス情報が IBM Director に正しく表示されないことを意味します。

### 調査

この問題を解決するには、Engenio のプロバイダー SMI-S 1.1 リリース 9.16.G0.19 を入手してインストールしてください。これは、次のサイトから入手できます。  
[www.engenio.com/products/smi\\_provider\\_archive.html](http://www.engenio.com/products/smi_provider_archive.html)

## ハイパー・スレッディングが使用可能であるときに、「リソース・モニター」タスクが、CPU が 1 つしか存在しない場合でも、2 つの CPU モニター・リソースを表示する。

ハイパー・スレッディング機能を持つ一部の Windows 管理対象システムにおいて、管理対象システムで「リソース・モニター」タスクを実行し、CPU モニター・リソースを表示すると、システムには実際に 1 つのマイクロプロセッサしか存在しない場合でも、2 つのマイクロプロセッサ (または CPU) のリソース属性が表示されます。この問題は、マイクロプロセッサに対してハイパー・スレッディングが使用可能にされている場合に発生します。「リソース・モニター」タスクは、オペレーティング・システムからデータを取り出しますが、オペレーティング・システムは 1 つのハイパー・スレッディング・マイクロプロセッサを 2 つの論理マイクロプロセッサとして解釈します。

## HMC 管理対象オブジェクトが検出されない

この問題は、IBM Director ハードウェア管理コンソール (HMC) extension に影響します。

### 問題

IBM Director HMC extension を使用すると、IBM Director サーバーは、HMC 管理対象オブジェクトを検出できず、次のメッセージが表示されます。

```
Error occurred while attempting to add the HMC.  
Unable to establish a connection with the system.
```

### 調査

HMC ハードウェアのアップグレードをインストールした後で、Open Pegasus および SLP のファイアウォール・ポートが使用不可になり、ファイアウォールへのアクセスができなくなる。

この問題を訂正するには、以下の手順を完了します。

1. 「HMC ナビゲーション領域 (HMC Navigation Area)」ペインで、影響を受ける HMC を展開し、「HMC 管理」を展開します。「HMC 構成」をクリックします。
2. 「HMC 構成」ペインで、「ネットワーク設定のカスタマイズ (Customize Network Settings)」をクリックします。
3. 「ネットワーク設定」ウィンドウで、「LAN アダプター」ページをクリックします。
4. ご使用の LAN に接続されている LAN アダプターを選択し、「詳細」をクリックします。
5. 「LAN アダプターの詳細」ウィンドウで、「ファイアウォール」ページをクリックします。
6. 一番上のペインには、使用可能なファイアウォール・ポートが表示されます。リストから「Open Pegasus」を選択し、「着信可能 (Allow Incoming)」をクリックします。Open Pegasus が使用可能ポートの一番下のペインに追加されます。
7. 一番上のペインのリストから「SLP」を選択し、「着信可能 (Allow Incoming)」をクリックします。SLP が、使用可能ポートの一番下のペインに追加されます。



8. 「OK」をクリックしてから、もう一度「OK」をクリックします。
9. HMC の再始動に関するメッセージ・ウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックします。HMC の再始動後には、ポートが使用可能になり、IBM Director サーバーが HMC を検出できます。

---

## 回避策

このセクションは、IBM Director 5.10 アップデート 3 の使用時に発生する可能性があるいくつかの問題に対応しています。ここにリストされていないその他の問題に関するトラブルシューティング情報については、IBM Director インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver>) のトラブルシューティングに関するセクションを参照してください。

[/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_r\\_tbs\\_solving\\_problems.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/topic/dirinfo/fqm0_r_tbs_solving_problems.html)

### VMware ESX 3.0 を実行している管理対象システムはイベントを送信しない。

VMware ESX 3.0 オペレーティング・システムでは、OpenIPMI ドライバーは使用可能でないため、これらの管理対象システムは、IBM Director にインバンド・イベントを送信しません。以下の手順を行って、VMware ESX 3.0 で OpenIPMI ドライバーを使用可能にしてください。

以下の手順は、VMware ESX 3.0 システムが開始するたびに行ってください。:

1. root ユーザーとしてログインし、以下のコマンドを入力して IPMI モジュールをアクティブ化します。

```
modprobe -v ipmi_devintf
modprobe -v ipmi_si_drv
```

2. 次のコマンドを入力して、アクティブな IPMI モジュールをリストします。

```
lsmod | grep ipmi
```

リストされたモジュールに次の 3 つのモジュールがすべて含まれているかどうかを検証します。

```
ipmi_devintf
ipmi_msghandler
ipmi_si_drv
```

3. IPMI デバイスがあれば、次のコマンドを入力して、削除します。

```
rm /dev/ipmi0
```

4. 新しい IPMI デバイスに対して使用する大きい番号を示します。次のコマンドを発行します。

```
cat /proc/devices | grep ipmi
```

このコマンドにより、番号およびそれに続けて ipmidev を含む 1 行の出力が表示されます。これが IPMI デバイスの作成に使用する大きい番号です。例えば、コマンド出力が 253 ipmidev であった場合、大きい番号として 253 を使用します。

5. 次のコマンドを発行し、指定した大きい番号を使用して IPMI デバイスを作成し、*major\_no* の実際の値を置き換えます。

```
mknod /dev/ipmi0 c major_no 0
```

6. CIM サーバーを停止してから再始動して、OpenIPMI ドライバーを使用するようにします。次のコマンドを発行します。

```
/etc/init.d/dacimom stop  
/etc/init.d/dacimom start
```

## HS21 ブレード・サーバーは、MPA > 不明イベントを生成することがある。

HS21 ブレード・サーバーは、MPA > 不明イベントを生成することがあります。このイベントは、拡張属性によって、ファームウェア・コードを提供します。ファームウェア・コード拡張属性が 0x0E012001 から 0x0E01200E までの値であると、このイベントは、ブレード・サーバーの重要プロダクト・データ (VPD) が読み取れず、ブレード・サーバーが電源オンできないことを示します。ファームウェア・コード拡張属性の最後の桁は、影響を受けるブレード・サーバーのスロット番号を示します。

## SUSE Linux Enterprise Server 9 にインストールされた IBM Director サーバー は、管理サーバーからハードウェア状況を収集し、イベントを収集するように手動で構成する必要があります。

SUSE Linux Enterprise Server 9 上で IBM Director サーバーをインストールした後は、IBM Director コンソールにハードウェア状況およびイベントが表示されることはありません。管理サーバーからこれらのイベントを受信するためには、以下の手順に従って、イベント・サブスクリプションを手動で構成する必要があります。

1. IBM Director コンソールで、IBM Director サーバーをインストールした管理サーバーを見つけます。
2. IBM Director コンソール内の管理サーバーをダブルクリックして、「システム属性の表示」ウィンドウをオープンします。
3. 「システム属性の表示」ウィンドウで、以下の属性それぞれにスクロールして、それらの値をメモします。

- 固有のシステム ID
- TCP/IP アドレス

4. コマンド・シェルをオープンし、`/opt/ibm/director/cimom/bin` ディレクトリーに変更します。

注: IBM Director サーバーを `/opt/ibm/director` 以外の場所にインストールした場合は、それに応じてパスを変更してください。

5. 以下のコマンドをそれぞれ入力して、ステップ 3 でメモした値で `unique_id` と `ip_address` を置き換えます。それぞれのコマンドを入力するたびに **Enter** を押します。

```
cimsubscribe -ch -hn unique_id  
              -d "http://localhost:6988/CIMListener/DirectorConsumer/ip_address  
cimsubscribe -cf -fn unique_id -q "SELECT * FROM CIM_AlertIndication"  
cimsubscribe -cs -hn unique_id -fn unique_id
```

IBM Director サーバーのイベント・サブスクリプションが構成され、イベントが「イベント・ログ」に表示されます。ハードウェア状況ツリーもイベント情報を反映します。

## ハードウェアを変更すると、サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールからエラーが戻される場合がある。

管理対象の BladeCenter シャーシ内のハードウェアになんらかの変更を行うと (ブレード・サーバーまたはファイバー・チャネル・スイッチの追加や削除など)、サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツール・コマンドの発行前にディスクバリアーを実行しておかないと、このコマンドでエラーが起きることがあります。

この問題を回避するには、サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツール・コマンドを発行する前に必ず BladeCenter シャーシのディスクバリアーを行ないます。

## 5.10 アップデート 2 以降で、サーバー構成マネージャーおよび管理プロセッサのコマンドライン・インターフェースが失敗する。

5.10 アップデート 2 以降、この問題は、サーバー構成マネージャーおよび管理プロセッサのコマンドライン・インターフェース・タスクに影響を及ぼします。これは、VMware ESX コンソール バージョン 2.5.2 または 2.5.3 を実行している特定の管理対象システムでのみ発生する問題です。

### 問題

管理対象システムにベースボード管理コントローラー (BMC) およびリモート管理アダプター II の両方が取り付けられていると (例えば、System x 366 および System x 460 など特定の System x サーバー)、管理対象システムが VMware ESX コンソール・バージョン 2.5.2 または 2.5.3 を実行する場合、IBM Director は、システム管理に BMC しか使用できません。VMware ESX コンソール・バージョン 2.5.2 または 2.5.3 が USB (ユニバーサル・シリアル・バス) プロトコルをサポートしないためです。BMC は、IBM Director コンソールでは物理プラットフォームとして表されます。すべての物理プラットフォームの検出が実行され、リモート管理アダプター II アダプターがネットワークに接続されている場合、管理対象物理プラットフォームは BMC からリモート管理アダプター II に変更されます。これにより、サーバー構成マネージャーおよび管理プロセッサのコマンドライン・インターフェースが失敗します。

### 解決

**この問題を回避する方法:** BMC とリモート管理アダプター II の両方が取り付けられ、VMware ESX コンソール・バージョン 2.5.2 または 2.5.3 を実行している環境に管理システムがある場合は、すべての物理プラットフォームのディスクバリアーを実行しないでください。

**この問題を訂正する方法:** この問題が発生した場合は、以下のステップを実行して問題を修正します。

1. IBM Director コンソールで、リモート管理アダプター II 物理プラットフォーム管理対象オブジェクトを削除します。物理プラットフォーム管理対象オブジェクトを右クリックして、「削除」をクリックします。
2. リモート管理アダプター II 物理プラットフォーム管理対象オブジェクトを手動で追加します。

- a. IBM Director コンソールで、「コンソール」 → 「新規」 → 「管理対象オブジェクト」 → 「物理プラットフォーム」をクリックします。
- b. 物理プラットフォームの名前を入力します。この名前は IBM Director コンソールに物理プラットフォーム名として表示されます。
- c. 物理プラットフォームのネットワーク・アドレスを入力します。
- d. 「OK」をクリックします。

BMC 物理プラットフォーム管理対象オブジェクトが再度 IBM Director コンソールで作成されます。

## **fwupdate コマンドが拡張管理モジュールのファームウェアを更新しない。**

拡張管理モジュールのファームウェア更新ファイルの形式は変更されています。CNETCMUS.pktファイルは真の pkt 形式のファイルではなく、2 つの pkt 形式ファイル (CNETBRUS.pkt と CNETMNUS.pkt) が収容されている tar アーカイブです。

これら 2 つのファイルを CNETCMUS.pktファイルから解凍し、fwupdate コマンドを使用して拡張管理モジュールのファームウェアを更新します。

## **外部アプリケーション起動ウィザードが失敗する。**

外部アプリケーション起動ウィザードをインストールしようとするとう失敗し、以下のエラー・メッセージが表示されます。

```
A suitable JVM could not be found. Please select a JVM by selecting its Java.exe file
```

InstallShield Wizard が要求するバージョンの Java 仮想マシン(JVM) がシステム上に存在しません。この JVM は、IBM Director サーバーのインストール時にインストールされるもので、外部アプリケーション起動ウィザードは、IBM Director サーバーがなければ全く機能しません。

始めに IBM Director サーバーをインストールしてから、外部アプリケーション起動ウィザードを管理サーバーにインストールしてください。

---

## 第 4 章 資料の更新

IBM Director 5.10 オンライン・ヘルプに記載されていない可能性がある IBM Director 5.10 アップデート 3 資料の更新は IBM Director インフォメーション・センター

([http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0\\_main.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0_main.html)) で見ることができます。IBM Director インフォメーション・センターでは、印刷版およびオンラインの資料に対する更新を提供します。

翻訳された情報を使用するユーザーは、以下の事実を考慮に入れてください。

- IBM Director 5.10 アップデート 3 に関する IBM Director インフォメーション・センター更新情報は、英語のみで提供され、その他の言語に翻訳されていません。
- 英語の資料はテクニカル・レビューアーにより承認され、翻訳された資料よりも頻繁に更新されます。翻訳された資料と英語の資料の間で矛盾が生じる場合は、英語の資料を信頼してください。

このセクションには、IBM Director オンライン・ヘルプ、IBM Director インフォメーション・センター、あるいは入手またはアクセスが可能な印刷版の IBM Director 資料に記載されていない可能性がある資料の更新について説明します。

---

### IBM Remote Deployment Manager がインストールされている場合に IBM サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールを使用

『IBM サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールのインストール』に記載したように、IBM サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールは、IBM Remote Deployment Manager (RDM) バージョン 4.30 以降と共存できます。管理サーバーに RDM もインストールされている場合に、サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールの動作に関する次の情報が必要になることがあります。

- サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールのインストールでは、RDM 4.3 が SSPT.jar ファイルをインストール済みである場合は、既存の SSPT.jar ファイルは削除され、サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールによりインストールされる SSPT.jar ファイルによって置き換えられます。RDM とサーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツール両方によって使用されるその他の共通ファイルもこのツールのファイルによって上書きされます。
- ssptConfig.xml および ssptConfigRDM.xml 構成ファイル両方がある場合、サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールはこれら 2 つのファイルの情報をマージします。この 2 つのファイルの構成情報に矛盾がある場合は、ssptConfig.xml に指定されている構成情報が優先されます。
- RDM もインストールされている管理サーバー上のサーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールをアンインストールするときは、サーバー・ストレージ・プロビジョニング・ツールに固有のファイルのみが削除されます。

## 標準インターフェース制御のキーボード・ショートカット

キーまたはキーの組み合わせを使用して、IBM Director コンソール・インターフェースで標準制御をナビゲートできます。

### ボタン

表3. ボタンのキーボード・ショートカット

アクション	キーボード・ショートカット
前方へナビゲートする。	Tab
後方へナビゲートする。	Shift+Tab
デフォルト・ボタンをアクティブにする。	Enter
いずれかのボタンをアクティブにする	スペース・バーまたは Alt+文字アクセラレーター・キー (定義されている場合)
「キャンセル」または「クローズ」をアクティブにする。	Esc

### チェック・ボックス

表4. チェック・ボックスのキーボード・ショートカット

アクション	キーボード・ショートカット
前方へナビゲートする。	Tab
後方へナビゲートする。	Shift+Tab
グループ内をナビゲートする。	矢印キー
チェック・ボックスを選択またはクリアする。	スペース・バー

### ラジオ・ボタン

表5. ラジオ・ボタンのキーボード・ショートカット

アクション	キーボード・ショートカット
前方へナビゲートする。	Tab
後方へナビゲートする。	Shift+Tab
グループ内をナビゲートする。	矢印キー 注: ラジオ・ボタンを選択するには、そのボタンまでナビゲートしてください。
ラジオ・ボタンを選択またはクリアする。	スペース・バー

## 組み合わせボックス

表6. 組み合わせボックスのキーボード・ショートカット

アクション	キーボード・ショートカット
次の組み合わせボックスにナビゲートする。	Tab
前の組み合わせボックスにナビゲートする。	Shift+Tab
テーブル・セル内の組み合わせボックスにナビゲートする (テーブル・セルをフォーカスする必要がある)。	F2
ドロップダウン・リストを表示する。	下矢印
ドロップダウン・リストを隠す。	Esc または Alt+上矢印
選択されたメニュー項目をアクティブにする。	Enter
ドロップダウン・リストを上または下にナビゲートする。	Alt+上矢印、または Alt+下矢印
テーブル内の組み合わせボックスのドロップダウン・リストを上または下にナビゲートする。	上矢印または下矢印
リスト項目にナビゲートする (選択はしない)。	そのリスト項目の先頭文字
ドロップダウン・リストを上または下に移動する。	上矢印または下矢印

## リスト

表7. リストのキーボード・ショートカット

アクション	キーボード・ショートカット
次のリストにナビゲートする。	Tab
前のリストにナビゲートする。	Shift+Tab
選択したリスト項目をアクティブにする。	Enter
リスト内をナビゲートする。	上矢印または下矢印
リストの始めまたは終わりにナビゲートする。	Ctrl+Home または Ctrl+End
すべてのリスト項目を選択する。	Ctrl+A
1 つのリスト項目を選択	スペース・バー 注: スペース・バーを使用すると、前の選択がクリアされます。
追加リスト項目を選択する。	Ctrl+スペース・バー
リスト項目の範囲を選択する。	Shift+スペース・バー
選択範囲を 1 項目上または下に拡張する。	Shift+上矢印、または Shift+下矢印
選択範囲をリストの先頭または末尾に拡張する。	Shift+Home または Shift+End

表7. リストのキーボード・ショートカット (続き)

アクション	キーボード・ショートカット
選択範囲を 1 ブロック上または下に拡張する。	Shift+PgUp または Shift+PgDn
上または下のブロックにナビゲートする。	PgUp または PgDn

## スライダー

表8. スライダーのキーボード・ショートカット

アクション	キーボード・ショートカット
次のスライダーにナビゲートする。	Tab
前のスライダーにナビゲートする。	Shift+Tab
値を大きくする	上矢印または右矢印
値を小さくする	下矢印または左矢印
最大値を設定する。	Home
最小値を設定する。	End
セット範囲による値を大きくする。	PgUp
セット範囲による値を小さくする。	PgDn

## テーブル

表9. テーブルのキーボード・ショートカット

アクション	キーボード・ショートカット
次のテーブルにナビゲートする。	Ctrl+Tab
前のテーブルにナビゲートする。	Ctrl+Shift+Tab
次のセルにナビゲートする。	Tab または右矢印
前のセルにナビゲートする。	Shift+Tab または左矢印
最後の列から次の行にナビゲートする。	Tab または右矢印
最初の列から前の行にナビゲートする。	Shift+Tab または左矢印
次または前のブロックに縦方向にナビゲートする。	PgUp または PgDn
1 ブロック左または右に (水平に) ナビゲートする。	Ctrl+PgUp または Ctrl+PgDn
行で最初または最後のセルにナビゲートする。	Home または End
テーブルで最初または最後のセルにナビゲートする。	Ctrl+Home または Ctrl+End
テーブルのセルをすべて選択する。	Ctrl+A



表9. テーブルのキーボード・ショートカット (続き)

アクション	キーボード・ショートカット
現在の選択をクリアする。	以下のキーボード・ショートカットのいずれかを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 上矢印または下矢印</li> <li>• Ctrl+上矢印、または Ctrl+下矢印</li> <li>• PgUp または PgDn</li> <li>• Ctrl+PgUp または Ctrl+PgDn</li> <li>• Home または End</li> <li>• Ctrl+Home または Ctrl+End</li> </ul>
選択範囲を 1 行上または下に拡張する。	Shift+上矢印、または Shift+下矢印
選択範囲を 1 列左または右に拡張する。	Shift+左矢印、または Shift+右矢印
選択範囲を行の始めまたは終わりに拡張する。	Shift+Home または Shift+End
選択範囲を 1 ブロック上または下に拡張する。	Shift+PgUp または Shift+PgDn
選択範囲を 1 ブロック左または右に拡張する。	Ctrl+Shift+PgUp または Ctrl+Shift+PgDn
選択範囲を列の始めまたは終わりに拡張する。	Ctrl+Shift+Home または Ctrl+Shift+End
既存のテキストを上書きせずにセルを編集する。	F2
編集する前にセルのテキストを削除する。	Esc

## ツリー

表10. ツリーのキーボード・ショートカット

アクション	キーボード・ショートカット
次のツリーにナビゲートする。	Tab
前のツリーにナビゲートする。	Shift+Tab
エントリーを展開	右矢印または Enter (縮小されている場合)
エントリーを縮小	左矢印または Enter (展開されている場合)
1 エントリー上または下にナビゲートする。	上矢印または下矢印
ツリーで最初のエントリーにナビゲートする。	Home
ツリー内で最後の可視のエントリーにナビゲートする。	End
1 ブロック上または下に (垂直に) ナビゲートする。	PgUp または PgDn

表 10. ツリーのキーボード・ショートカット (続き)

アクション	キーボード・ショートカット
1 ブロック左または右にナビゲートする。	Ctrl+PgUp または Ctrl+PgDn
すべてのエントリーを選択する。	Ctrl+A または Ctrl+/
選択をクリアする。	Ctrl+¥
1 つのエントリーを選択する。	Ctrl+スペース・バー
エントリーの範囲を選択する。	Shift+スペース・バー
選択範囲を 1 ブロック上または下に拡張する。	Shift+PgUp または Shift+PgDn
選択範囲をツリーの先頭に拡張する。	Shift+Home
選択範囲をツリーの末尾に拡張する。	Shift+End

## 構成マネージャー・プロファイル後方互換性ユーティリティの使用

5.10 アップデート 3 以降、構成マネージャー・プロファイル後方互換性ユーティリティは、IBM Director とともにインストールされるスタンドアロン・アプリケーションで、IBM Director バージョン 4.10、4.20、4.21、および 4.22 で作成されたデプロイメント・ウィザードの構成プロファイルを IBM Director 5.10 で使用可能な構成マネージャー・プロファイルに移行します。

注: 構成マネージャー・プロファイル後方互換性ユーティリティは、IBM Director サーババージョン 5.10.3 とともに自動的にインストールされます。

構成マネージャー・プロファイル後方互換性ユーティリティを実行するには、以下の手順に従ってください。

1. コマンド・プロンプトで、IBM Director サーバがインストールされているディレクトリーの下にある classes ディレクトリーに切り替えます。
2. 次のいずれかのコマンドを入力して **Enter** を押してください。

オペレーティング・システム	コマンド
Windows	WizardToConfigMgr.bat
AIX、i5/OS、Linux	WizardToConfigMgr.sh

構成マネージャー・プロファイル後方互換性ユーティリティは、データベース内の既存デプロイメント・ウィザード・プロファイルをすべて検出して、それらをユーザー介入なしで、構成マネージャー・プロファイルに変換します。検出されたデプロイメント・ウィザードの XML ファイルは、構成マネージャーの XML ファイルに変換されます。構成マネージャーの XML ファイルは、必要であれば手動でインポートできます。

構成マネージャー・プロファイル後方互換性ユーティリティの実行時に表示される状況メッセージの説明については、次のテーブルを参照してください。

メッセージ	説明
Operation succeeded!	構成プロファイルが正常に変換されました。
Output = Error: could not connect to CLI daemon.	IBM Director サーバーが実行されていないため、構成プロファイルを変換することができません。検出されたデプロイメント・ウィザードの XML ファイルは、構成マネージャーの XML ファイルに変換されます。
Execution Error: The specified Configuration Manager profile already exists.	デプロイメント・ウィザード・プロファイルと同じ名前の構成マネージャー・プロファイルが検出されました。デプロイメント・ウィザード・プロファイルは変換されません。検出されたデプロイメント・ウィザードの XML ファイルは、構成マネージャーの XML ファイルに変換されます。
Password missing or invalid	コンポーネントの構成データが正しくないか欠落しています。デプロイメント・ウィザード・プロファイルは変換されません。検出されたデプロイメント・ウィザードの XML ファイルは、構成マネージャーの XML ファイルに変換されます。
abcwizard.dtd may be missing!	タグを検証する文書型定義 (DTD) スキーマ・ファイル (abcwizard.dtd) がありません。このファイルは、WizardToConfigMgr バッチ・ファイルまたはシェル・スクリプト・ファイルと同じディレクトリーになければなりません。このファイルがないと、デプロイメント・ウィザード・プロファイルおよびデプロイメント・ウィザードの XML ファイルは変換できません。
No Deployment Wizard profiles found	このユーティリティーは、変換すべきデプロイメント・ウィザード・プロファイルを検出できませんでした。検出されたデプロイメント・ウィザードの XML ファイルは、構成マネージャーの XML ファイルに変換されます。

## Red Hat Enterprise Linux バージョン 3 および 4 用の SNMP アクセスおよびトラップ転送を使用可能にする

Red Hat Enterprise Linux バージョン 3 および 4 でサポートされる OpenIPMI ドライバーは、これらの Linux ディストリビューションに含まれている Net-SNMP のバージョンに依存します。IBM Director コア・サービス には、異なる Net-SNMP バージョン 5.2.1 が必要です。OpenIPMI サービスに合わせずに、IBM Director の SNMP アクセスおよびトラップ転送を行うには、既存の Net-SNMP バージョンを削除せずに Net-SNMP 5.2.1 をインストールする必要があります。

Red Hat Enterprise Linux バージョン 3 および 4 を実行する管理対象システムの SNMP アクセスおよびトラップ転送を使用可能にするには、以下の手順を完了します。

1. Net-SNMP Web サイト ([www.net-snmp.org/download.html](http://www.net-snmp.org/download.html)) から net-snmp-5.2.1.tar.gz ファイルをダウンロードします。
2. 以下のステップを実行し、Net-SNMP ライブラリーを作成してインストールします。

**注:**

- この手順では、Net-SNMP のフルインストールは実行しません。IBM Director コア・サービス SNMP 機能に必要な Net-SNMP ライブラリーのみをインストールします。
  - その他のインストール情報については、net-snmp-5.2.1.tar.gz パッケージに組み込まれている INSTALL および README ファイルを参照してください。
- a. ソース・ファイルを `untar` します。次のコマンドを入力して **Enter** を押します。

```
tar -xvzf net-snmp-5.2.1.tar.gz
```
  - b. ソース・ディレクトリーに移動します。次のコマンドを入力して **Enter** を押します。

```
cd net-snmp-5.2.1
```
  - c. デフォルト・オプションで Net-SNMP ライブラリーを作成します。以下のコマンドを入力します (それぞれの後に **Enter** を押します)。

```
./configure --with-defaults  
make
```
  - d. Net-SNMP ライブラリーを `/usr/local/lib` のみにインストールします。次のコマンドを入力して **Enter** を押します。

```
make installlibs
```
3. トラップ転送を使用可能にするには、`/etc/init.d/dacimlist` ファイルを編集して、「SNMP End Consumer」セクションで次の 2 行のコメントを外します。

```
LD_LIBRARY_PATH=/usr/local/lib  
export LD_LIBRARY_PATH
```

**注:** 構成変更は、ステップ 7 (47 ページ) で `cimlistener` デーモンを再始動するまで有効になりません。
  4. SNMP アクセスを使用可能にするには、`/etc/init.d/dasnmpp` ファイルを編集して、`net-snmp` ライブラリーの場所に関するセクションで次の 2 行のコメントを外します。

```
LD_LIBRARY_PATH=/usr/local/lib  
export LD_LIBRARY_PATH
```
  5. Red Hat Enterprise Linux に標準装備されている SNMP デーモンを構成して、AgentX エージェントをサポートします。詳しくは、Net-SNMP Web サイトの資料を参照してください。

6. ファイル `/usr/local/share/snmp/snmpd.conf` を作成して、`trapsink` および `trapcommunity` 設定を指定します。ディレクトリーを作成する必要があります。このファイルには、`trapcommunity` および `trapsink` の設定のみが含まれている必要があります。
  - a. 次の例のように、`trapcommunity`、その後続くスペース、および `trapcommunity` 値が入った行を追加することによってトラップ・コミュニティ値を指定します。
 

```
trapcommunity public
```
  - b. IBM Director が SNMP トラップを送信する宛先ごとに `trapsink` 値を指定します。次の例のように、`trapsink`、その後続くスペース、および `trapsink` 値が入った行を追加します。
 

```
trapsink 192.168.1.1
```
7. 以下のコマンドを入力し、それぞれの後に **Enter** を押して、`cimlistener` デーモンを再始動します。
 

```
/etc/init.d/dacimlist stop
/etc/init.d/dacimlist start
```
8. 以下のコマンドを入力し、それぞれの後に **Enter** を押して、IBM Director AgentX サブエージェントを再始動します。
 

```
/etc/init.d/dasnmpp stop
/etc/init.d/dasnmpp start
```

---

## 管理プロセッサ・コマンドライン・インターフェースの `getmmvdp` コマンド

管理プロセッサ・コマンドライン・インターフェースの `getmmvdp` コマンドは、プライマリーおよびリダンダント管理モジュール両方の重要プロダクト・データ (VPD) を検索します。



### オプションおよびオペランド

#### **-interface 1**

プライマリー管理モジュールの VPD を検索します。 `getmmvdp` コマンドにオプションが指定されていない場合、これがデフォルトの動作です。

#### **-interface 2**

リダンダント管理モジュールの VPD を検索します。

### 例

プライマリー管理モジュールの VPD を検索します。

```
getmmvdp -interface 1
```

リダンダント管理モジュールの VPD を検索します。

```
getmmvdp -interface 2
```

---

## 「カスタム・パッケージの作成」ウィンドウ: i5/OS ページ

このトピックでは、IBM Director の「カスタム・パッケージの作成」ウィンドウ: i5/OS ページについて説明します。

### フィールド

#### パッケージを i5/OS に配布可能

このチェック・ボックスを選択すると、このパッケージを i5/OS システムに配布できることを示し、このページ上の他のフィールドがアクティブになります。

#### 宛先ディレクトリー

ターゲット・システム上のファイルを入れたい場所の完全修飾パスを指定します。配布するサブディレクトリーを 1 つまたは複数選択すると、そのディレクトリー構造がこのパスに追加されます。

**注:** パスにスペースが含まれる場合は、完全なパスを引用符 ( " ") で囲む必要があります。

#### 事前配布の実行

この配布を実行する前に開始される 1 つまたは複数のプログラム。

#### 拡張

##### ユーザー ID

この配布を使用するためのユーザー ID。

##### パスワード

ユーザー ID と関連したパスワード。

##### パスワードの確認

正確さを確認するためのパスワードの再入力。

##### プログラム

このペインでは、配布前に実行されるプログラムを選択できます。

実行したいプログラムへのパスを入力する場合に、システム環境変数 (WRKENVVAR) がサポートされます。システム環境変数を使用するための正しい構文は `command $(env_var)` です。WRKACTJOB または CRTLIB などの i5 プラットフォーム・コマンドを実行する場合は、ネイティブ・モードを選択してください。ls または env などの QSHELL コマンドを実行する場合は、それらのコマンドを /usr/bin で完全修飾して、QSHELL モードを選択します。

**注:** 使用しているコマンドが統合ファイル・システム (IFS) 構造 (`/directory1/directory2`) を処理する場合は、環境変数の中で、この値を単一引用符 ( ' ' ) で囲んでください。

#### 環境変数を作成する例

### ライブラリー名

```
ADDENVVAR ENVVAR (libEnvvar) VALUE  
('Library') LEVEL(*SYS)
```

### ネイティブ・コマンドのディレクトリー構造

```
ADDENVVAR ENVVAR (dirEnvvar) VALUE  
("/directory name/") LEVEL(*SYS)
```

### QShell コマンドのディレクトリー構造

```
ADDENVVAR ENVAR (qshEnvvar) VALUE  
("/home_directory/directory2")  
LEVEL(*SYS)
```

「カスタム・パッケージの作成」ウィンドウから環境変数にアクセスする例

### ライブラリーの作成

```
CTRLIB $(libEnvvar)
```

### ディレクトリー構造付きネイティブ・コマンド

```
CHGCURDIR $(dirEnvvar)
```

### QShell コマンド

```
/usr/bin/ls $(qshEnvvar)
```

パス プログラムへのパス。

注: パスにスペースが含まれる場合は、完全なパスを引用符 (" ") で囲む必要があります。

引数 実行プログラムによって使用されるパラメーターと設定。

QShell i5/OS シェルで実行されるコマンド。

追加... 「追加」をクリックすると、「パス」と「引数」を入力するためのダイアログが表示されます。「OK」をクリックして、「事前配布拡張設定」ペインに入力されたデータを保管するか、または「キャンセル」をクリックして入力されたデータを破棄します。

除去 「除去」をクリックすると、「パス」ペインと「引数」ペインの強調表示項目が消去されます。

### 上および下矢印

これらの矢印は、「パス/引数」ペインの項目の順序を変更するために使用されます。項目をクリックして選択してから、希望の順序になるまで、上矢印 (赤色) を使ってその項目を上に移すか、または下矢印 (青色) を使って下に移す。

### ネイティブまたは QShell

これらのラジオ・ボタンにより、ネイティブ・モードまたは QShell のどちらで実行するかを選択できます。

## ファイルはターゲット・システムに存在

このチェック・ボックスを選択して、実行するファイルがターゲット・システムに存在することを示します。

## 事後配布の実行

この配布を実行した後に実行される 1 つまたは複数のプログラム。システム環境変数の使用は、パスの入力でサポートされています。システム環境変数を使用するための正しい構文は `CRTLIB $(env_var)` です。システム環境変数を使用する場合、**ネイティブ・モード**での実行を選択する必要があります。

## 拡張

### ユーザー ID

この配布を使用するためのユーザー ID。

### パスワード

ユーザー ID と関連したパスワード。

### パスワードの確認

正確さを確認するためのパスワードの再入力。

### プログラム

このペインでは、配布前に実行されるプログラムを選択できます。

実行したいプログラムへのパスを入力する場合に、システム環境変数 (`WRKENVVAR`) がサポートされます。システム環境変数を使用するための正しい構文は `command $(env_var)` です。 `WRKACTJOB` または `CRTLIB` などの `i5` プラットフォーム・コマンドを実行する場合は、**ネイティブ・モード**を選択してください。 `ls` または `env` などの `QShell` コマンドを実行する場合は、それらのコマンドを `/usr/bin` で完全修飾して、**QShell** モードを選択します。

**注:** 使用しているコマンドが統合ファイル・システム (`IFS`) 構造 (`/directory1/directory2`) を処理する場合は、環境変数の中で、この値を単一引用符 ( `'` ) で囲んでください。

**パス** プログラムへのパス。

**注:** パスにスペースが含まれる場合は、完全なパスを引用符 ( `"` ) で囲む必要があります。

**引数** 実行プログラムによって使用されるパラメーターと設定。

**QShell** `i5/OS` シェルで実行されるコマンド。

**追加...** 「追加」をクリックすると、「パス」と「引数」を入力するためのダイアログが表示されます。「OK」をクリックして、「事前配布拡張設定」ペインに入力されたデータを保管するか、または「キャンセル」をクリックして入力されたデータを破棄します。



**除去** 「除去」をクリックすると、「パス」ペインと「引数」ペインの強調表示項目が消去されます。

#### 上および下矢印

これらの矢印は、「パス/引数」ペインの項目の順序を変更するために使用されます。項目をクリックして選択してから、希望の順序になるまで、上矢印 (赤色) を使ってその項目を上に移動するか、または下矢印 (青色) を使って下に移動します。

#### ネイティブまたは QShell

これらのラジオ・ボタンにより、ネイティブ・モードまたは QShell のどちらで実行するかを選択できます。

#### ファイル許可

ファイルおよびディレクトリーの許可を設定できる「ファイル許可」ペインを表示します。

---

## twgrestore

このトピックでは、twgrestore コマンドに関する情報を提供します。このコマンドは、IBM Director の持続データベースを復元します。

▶▶ twgrestore *directory*  -t

### パラメーター

#### *directory*

持続データベースが復元される元のディレクトリーを指定します。復元するデータは、インストールされている IBM Director サーバーまたは IBM Director エージェントと同じバージョンのものでなければなりません。

**-t** システム固有 ID もシステム名も復元されないことを指定します。

**注:** このコマンドは、ローカルで実行する必要があります。このコマンドを実行する前に、そのシステムで実行されているすべての IBM Director プロセスを停止してください。

### 例

すべての IBM Director の持続データベースを復元してください。

次のコマンドはすべての IBM Director 持続データベースを復元します。

```
twgrestore /opt/IBM/director.save.1
```

#### 固有システム ID と名前の復元は除外する

以下のコマンドは、固有システム ID と名前以外のすべての IBM Director 持続データベースを復元します。

```
twgrestore /opt/IBM/director.save.1 -t
```

## 戻りコード

twgrestore コマンドは、以下のコードを戻します。

コード	意味
0	設定データが正常に復元されました。
1	無効なパラメーターが発行されました。
2	IBM Director サービスがまだ実行中です。
3	tar コマンドが失敗しました。
15	アクセス不能なディレクトリーが指定されました。

---

## twgreset

twgreset コマンドは、IBM Director サーバーをそのインストール時のデフォルト値に戻し、データベース内のすべての表をクリアします。

注意:

twgreset は、IBM Director サーバーの構成を変更しますが、手動で IBM Director サーバーを再構成する以外に、その変更を取り消すことはできません。

▶▶—twgreset  -i

## パラメーター

-i twgreset がシステムの固有識別ファイルも消去することを指定します。

## 例

**IBM Director サーバー 構成をインストール時のデフォルト値にリセットする**

以下のコマンドは、IBM Director 構成をリセットして、システムの固有識別ファイルを消去します。

```
twgreset -i
```

---

## 付録 A. 関連情報

本書以外から IBM Director に関する追加情報を入手することもできます。

### WWW 上の IBM Director のリソース

以下の Web ページでは、IBM Director およびその他のシステム管理ツールを理解、使用、およびトラブルシューティングするために役立つリソースが提供されています。

#### IBM Director インフォメーション・センター

[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_main.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_main.html)

IBM Director インフォメーション・センターは定期的に更新され、広範囲なトピックにわたる最新の資料を参照できます。

#### IBM Director Web サイト (ibm.com®)

[www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems\\_management/ibm\\_director/](http://www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/ibm_director/)

IBM Director Web サイト (ibm.com)には、現在サポートされているすべてのバージョンの IBM Director に関するダウンロードおよび文書へのリンクがあります。このサイトの情報は以下のとおりです。

- 次のIBM Director リリースのダウンロードと資料
  - IBM Director 5.10 アップデート 3 (5.10.3)
  - IBM Director 5.10 アップデート 2 (5.10.2)
  - IBM Director 5.10 アップデート 2 (5.10.2) UIM
  - IBM Director 5.10 アップデート 1 (5.10.1)
  - IBM Director 5.10 アップデート 1 (5.10.1) UIM
  - IBM Director 5.10
  - IBM Director 5.10 UIM
  - IBM Director 4.22
  - IBM Director 4.22 UIM
  - IBM Director 4.21
  - IBM Director 4.20
- *IBM Director Hardware and Software Support Guide* 資料。これは、サポートされている IBM システムおよびすべてのオペレーティング・システムをリストしています。6 週間から 8 週間ごとに更新されます。
- IBM Director の PDF 資料。さまざまな言語で Portable Document Format (PDF) 形式のものが用意されています。

#### IBM Director Software Developers Kit インフォメーション・センター

[publib.boulder.ibm.com/infocenter/dirinfo/toolkit/index.jsp](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dirinfo/toolkit/index.jsp)

IBM Director Software Developers Kit (SDK) インフォメーション・センターは、IBM Director SDK に関する情報を提供します。これは、API および

CLI の使用、タスクの作成、および IBM Director ユーザー・インターフェースからのツールの起動によって IBM Director の機能を拡張する上で役立つ一連のツールと資料です。

#### **IBM Systems ソフトウェア・インフォメーション・センター**

[www.ibm.com/servers/library/infocenter/](http://www.ibm.com/servers/library/infocenter/)

この Web ページには、IBM Virtualization Engine、IBM Director、外部アプリケーション起動ウィザード、Virtual System Manager、およびその他のトピックについての情報が用意されています。

#### **IBM ServerProven® ページ**

[www.ibm.com/servers/eserver/serverproven/compat/us/](http://www.ibm.com/servers/eserver/serverproven/compat/us/)

この Web ページには、IBM Director との IBM System x、BladeCenter、および IntelliStation ハードウェア互換性についての情報が用意されています。

#### **IBM サーバー**

[www.ibm.com/servers/](http://www.ibm.com/servers/)

ibm.com の Web ページには、以下の IBM 製品用の情報、ダウンロード、および Remote Deployment Manager、キャパシティー・マネージャー、システム稼働状況、およびソフトウェア配布 (Premium Edition) などの IBM Director extension へのリンクがあります。

- IBM BladeCenter
- IBM System i™
- IBM System p
- IBM System x
- IBM System z™

#### **IBM Virtualization Engine システム・サービスのフィックス**

[www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/VirtualizationEngine/home2.html](http://www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/VirtualizationEngine/home2.html)

この Web ページは、Virtualization Engine システム・サービスに必要なフィックスに関する情報を提供します。フィックスには、システム・サービスに必要なオペレーティング・システムのフィックスと、それぞれのシステム・サービスが正常に機能するために必要なアプリケーション・レベルのフィックスが含まれています。

#### **IBMフォーラム**

[www.ibm.com/developerworks/forums/dw\\_esforums.jsp](http://www.ibm.com/developerworks/forums/dw_esforums.jsp)

この ibm.com 上の Web ページは、Web ページとして使用可能ないくつかのフォーラム、あるいは IBM サーバーに関連した技術的な問題を討議するユーザーのための Rich Site Summary (RSS) フィードを使用したフォーラムへリンクしています。

これらのフォーラムの中の 3 つは、IBM Director ユーザーにとって特に有益です。

#### **System x IBM Directorフォーラム**

[www.ibm.com/developerworks/forums/dw\\_forum.jsp?forum=759&cat=53](http://www.ibm.com/developerworks/forums/dw_forum.jsp?forum=759&cat=53)

IBM Director のどのようなトピックも討議できるフォーラムです。この Web ページには、RSS フィードを使用したフォーラムへのリンクがあります。

#### **System x サーバーのフォーラム**

[www.ibm.com/developerworks/forums/dw\\_forum.jsp?forum=740&cat=53](http://www.ibm.com/developerworks/forums/dw_forum.jsp?forum=740&cat=53)

System x サーバーのトピック (ドライバー、ファームウェア、オペレーティング・システム、クラスタリング、およびストレージに関連した質問を含む) を討議するフォーラムです。この Web ページには、RSS フィード経由でフォーラムにつながるリンクがあります。

#### **IBM Director SDK フォーラム**

[www.ibm.com/developerworks/forums/dw\\_forum.jsp?forum=849&cat=53](http://www.ibm.com/developerworks/forums/dw_forum.jsp?forum=849&cat=53)

特定のニーズに対応するために IBM Director SDK を使用して IBM Director の機能を拡張する方法について討議するフォーラムです。この Web ページには、RSS フィード経由でフォーラムにつながるリンクがあります。

## **IBM Redbooks™ 資料**

[www.ibm.com/redbooks/](http://www.ibm.com/redbooks/)

以下の資料を IBM Redbooks Web ページからダウンロードできます。また、この Web ページで、特定の IBM ハードウェア資料、例えばシステム管理に関する情報にフォーカスした資料などを検索できます。

注: 資料の発行日に注意して、その IBM Director ソフトウェアのレベルと Redbooks 資料が参照しているレベルを判断してください。

- *Creating a Report of the Tables in the IBM Director 4.1 Database* (TIPS0185)
- *IBM Director Security* (REDP-0417)
- *IBM BladeCenter Systems Management with IBM Director V4.1 and Remote Deployment Manager V4.1* (REDP-3776)
- *Implementing IBM Director 5.10* (SG24-6188)
- *Integrating IBM Director with Enterprise Management Solutions* (SG24-5388)
- *Managing IBM TotalStorage® NAS with IBM Director* (SG24-6830)
- *Monitoring Redundant Uninterruptible Power Supplies Using IBM Director* (REDP-3827)

## **リモート管理アダプター**

### **リモート管理アダプター概説**

[www.ibm.com/support/docview.wss?uid=psg1MIGR-4UKSML](http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=psg1MIGR-4UKSML)

この Web ページには、「*Remote Supervisor Adapter User's Guide*」および「*Remote Supervisor Adapter Installation Guide*」へのリンクが掲載されています。

### **リモート管理アダプター II 概説**

[www.ibm.com/support/docview.wss?uid=psg1MIGR-50116](http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=psg1MIGR-50116)

この Web ページには、リモート管理アダプター II についての情報が掲載されています。

## その他の資料

計画の目的では、以下の資料が参考になります。

- *Planning and Installation Guide - IBM BladeCenter (Type 8677)*
- *IBM Management Processor Command-Line Interface (MPCLI) User's Guide version 5.10*

---

## 付録 B. カスタマー・サポートへの連絡

ヘルプ、サービス、技術支援、または IBM 製品に関する詳しい情報が必要な場合は、IBM がさまざまな形で提供している支援をご利用いただけます。ここでは、IBM および IBM 製品に関する追加情報を得るにはどうすればよいか、ご使用の System x または IntelliStation システムで問題が発生した場合の対処方法、および、サービスが必要になった場合の連絡先について記載します。

---

### サポートを依頼する前に

連絡する前に、以下の手順を実行して、必ずお客様自身で問題の解決を試みてください。

- ケーブルがすべて接続されていることを確認します。
- 電源スイッチをチェックして、システムの電源がオンになっていることを確認します。
- ご使用のシステムに付属の資料に記載のトラブルシューティング情報を参照するか、診断ツールを使用します。BladeCenter および System x システムの診断ツールの説明は、「IBM System x ドキュメンテーション」CD の「*Problem Determination Service Guide*」に記載されています。IntelliStation の診断ツールの説明は、IBM Support Web サイトにある IntelliStation の「*Hardware Maintenance Manual*」を参照してください。
- IBM サポート Web サイト ([www.ibm.com/support/us](http://www.ibm.com/support/us)) で、テクニカル情報、ヒント、および新規デバイス・ドライバーを調べるか、情報を要求してください。

多くの問題は、IBM のシステムやソフトウェアに付属のオンライン・ヘルプおよび説明資料に記載のトラブルシューティング手順を実行することで、外部の支援なしに解決することができます。ご使用のシステムに付属の資料には、ユーザーが実行できる診断テストについても記載しています。ほとんどの BladeCenter、System x、IntelliStation システム、オペレーティング・システム、およびプログラムには、トラブルシューティング手順やエラー・メッセージおよびエラー・コードに関する説明書が付属しています。ソフトウェアの問題だと考えられる場合は、オペレーティング・システムまたはプログラムの資料を参照してください。

---

### 資料の使用

IBM BladeCenter、System x、または IntelliStation システム、およびプリインストール・ソフトウェアに関する情報は、システムに付属の資料に記載されています。資料には、印刷された説明書、オンライン・ブック、README ファイル、およびヘルプ・ファイルがあります。

診断プログラムの使用方法については、システム資料にあるトラブルシューティングに関する情報を参照してください。トラブルシューティング情報または診断プログラムを使用した結果、デバイス・ドライバーの追加や更新、あるいは他のソフトウェアが必要になることがあります。IBM は WWW に、最新の技術情報を入手したり、デバイス・ドライバーおよび更新をダウンロードできるページを設けていま

す。これらのページにアクセスするには、[www.ibm.com/support/us](http://www.ibm.com/support/us) に進み、説明に従ってください。IBM 資料は、[www.elink.ibm.com/public/applications/publications/cgi-bin/pbi.cgi](http://www.elink.ibm.com/public/applications/publications/cgi-bin/pbi.cgi)で、「IBM Publications Ordering System」を使用して注文することもできます。

---

## ヘルプおよび情報を WWW から入手する

ワールド・ワイド・ウェブ上の IBM Web サイトには、IBM BladeCenter、System x、および IntelliStation などの製品、サービス、およびサポートについての最新情報が提供されています。

適用可能な製品情報については、次の Web アドレスにアクセスしてください。

IBM 製品	Web アドレス
BladeCenter 製品	<a href="http://www.ibm.com/servers/eserver/support/bladecenter/">www.ibm.com/servers/eserver/support/bladecenter/</a>
IntelliStation ワークステーション	<a href="http://www.ibm.com/servers/intellistation/pro/already.html">www.ibm.com/servers/intellistation/pro/already.html</a>
System xサーバー	<a href="http://www.ibm.com/servers/eserver/support/xseries/index.html">www.ibm.com/servers/eserver/support/xseries/index.html</a>

ご使用の IBM 製品 (サポート対象のオプションを含む) に関するサービス情報は、[www.ibm.com/support/us](http://www.ibm.com/support/us) で入手できます。

IBM Director に関する情報は、[www.ibm.com/developerworks/forums/dw\\_forum.jsp?forum=759&cat=53](http://www.ibm.com/developerworks/forums/dw_forum.jsp?forum=759&cat=53) の IBM Systems forum から入手できます。

---

## ソフトウェアのサービスとサポート

IBM サポート・ラインを使用すると、IBM System x サーバー、IntelliStation ワークステーション、およびその他の製品の用法、構成、およびソフトウェアの問題について、電話による援助を有料で受けることができます。

IBM ソフトウェア・メンテナンス (SWMA) を使用すると、IBM System i テクノロジー、System p サーバー、および System x の用法、構成、およびソフトウェアの問題について、電話による援助または電子アシスタンスを有料で受けることができます。修正およびアップデートは、製品の保証の一環であり、製品ライセンスに含まれています。

IBM サービスおよびサブスクリプション (S&S) を使用すると、System z メインフレームの欠陥ソフトウェアの問題について、電話による援助または電子アシスタンスを有料で受けることができます。修正およびアップデートは、製品の保証の一環であり、製品ライセンスに含まれています。

### 注:

1. IBM ハードウェアに IBM Director サーバーをインストールして使用する場合は、BladeCenter および System x 用の Implementation Services ServicePac<sup>®</sup> を購入して、IBM Director サーバーに関するサービスおよびサポートを受けることができます。
2. IBM 以外のハードウェアに IBM Director サーバーをインストールして使用する場合は、IBM Director サーバーのライセンスを購入する必要があります。



す。ただし、このライセンスは、IBM Director サーバーのサービスおよびサポートを受ける権利を付与するものではありません。サービスおよびサポートは、サポート・ラインを通じて別途、購入することができます。また、System x および IBM x86 以外のシステム用サポート・ラインのプロアクティブ・サポート・オプションである Enhanced Technical Support (ETS) も購入できます。

使用する国または地域で、サポート・ラインがサポートする製品について詳しくは、[www-935.ibm.com/services/jp/its/pdf/support/sllist.pdf](http://www-935.ibm.com/services/jp/its/pdf/support/sllist.pdf) をご覧ください。

サポート・ラインおよびその他の各種 IBM サービスについて詳しくは、[www.ibm.com/jp/servers/eserver/xseries/service/xsupportline.shtml](http://www.ibm.com/jp/servers/eserver/xseries/service/xsupportline.shtml) をご覧になるか、あるいは [www.ibm.com/planetwide/](http://www.ibm.com/planetwide/) で、サポート電話番号をご覧ください。米国およびカナダの場合は、1-800-IBM-SERV (1-800-426-7378) に電話してください。



---

## 付録 C. 特記事項および商標

ここでは、特記事項と商標の情報を提供します。

---

### 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711  
東京都港区六本木 3-2-12  
IBM World Trade Asia Corporation  
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

© Copyright IBM Corp. 2004 439 本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交

換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
MW9A/050  
5600 Cottle Road  
San Jose, CA 95193  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願います。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

---

## 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Asset ID  
BladeCenter  
Cloudscape  
DB2  
DS4000  
eServer™  
i5/OS  
IBM  
ibm.com  
IntelliStation  
Itanium  
Predictive Failure Analysis®

Redbooks  
ServeRAID  
ServerProven  
ServicePac  
System i  
System p  
System z  
System x  
TotalStorage  
Virtualization Engine  
xSeries  
z/VM  
zSeries

Intel、Itanium、および Pentium® は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java™ およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、および Windows NT® は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Red Hat およびすべての Red Hat ベースの商標とロゴは Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

SET は、SET Secure Electronic Transaction LLC の米国およびその他の国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。







Printed in Japan